

資 料

ドイツ刑法学の現状 (追録Ⅷ)

(I: A—D)

宮 澤 浩 一

ま え が き

① 法学研究57巻12号, 1984年に発表した 追録Ⅶ〔これは, 宮澤浩一編・西ドイツ刑法学, 成文堂, 1978年の追録Ⅳである〕を公刊してから, 早くも, 12年の歳月が流れた。それまでは, 2—3年おきに追録を出していたので, 思いもかけないほどの長い空白を作ってしまった。愛用して下さっている内外の知人たちから, 『その後, どうなっているか』と問い合わせを受けるようになった。『西ドイツ刑法学』(1978年)を出版してから, 18年になろうとしているので, そろそろ, 第2版を出さねばならないと考えており, 事実, その準備に取り掛かっているのであるが, 何しろ, 時間がない。仕事の性質上, 他人任せにできないこともあって, 気ばかり焦っていた。

② その間, 1990年10月に, 東西ドイツの平和的統一という, 全く思いもかけない出来事が起こり, 旧東独大学の法学部から, 社会主義国家体制を支えていた学者が去り, 旧西独の学者の手で再建がなされ, 特に, 刑事法学者は, ほとんど全てが旧西独の法学部で教授資格を取得した者によって占められることになった。殊に, それまでどちらかという不遇であった人達が, 旧東独諸州に再建された法学部に就職している。

③ ドイツ統一まで, 西独の学問, 特に, 刑事法学と殆どかわりを持たなかった旧東独では, 社会体制の違いにより, まともな研究・教育を怠って来た。いわゆる民主集中制という名の独裁政治, 社会主義統一党と言う名の共産党による国家統治の下では, 法治国とは名ばかりの権力支配が行われていた。裁判制度も, 党の支配下であり, 法曹階層の養成は, 社会的な必要性が乏しかった。事実, 伝統あるローストック大学とグライフスワルト大学の法学部は閉鎖され, 後者の図書館の蔵書の殆どは, フランクフルトの古本見本市で売りに出されてしまった。法学部として存続していた大学の法学部関係の蔵書のうち, 社会主義的法理論を内容とするものは, 統一後, 全く役に立たない反古の山に化してしまった。旧東独大学の法学部の研究体制は, 旧西独の諸大学と比べて, 見劣りするが, 最近3年の間に, かなり充実しているのも事実である。2—3の大学を除き, 押しなべて, 研究・教育条件が良くないにもかかわらず, 旧東独の諸大学での研究・教育は, 熱心に行われている。それというのも, 旧東独諸州の法学部で学ぶ若者は, 旧西独と比べて, 勉強意欲があり, 勉強に“動機付け”があり, 社会主義制度によって崩壊した司法・行政の立て

直しに寄与出来るように懸命の努力をしている。比較的若い教授陣が、その熱意に応じて、研究と教育に従事しているといった状況を看取しうるのである。

④ もちろん、旧西独の諸大学の刑事法研究者にも世代の交替がある。例えば、かつて、若手教授たちにより構成された『対案グループ』の主だった教授たちは、その間、長老教授となり、その殆んどは、定年によって退官している。彼らの助手たちが、今や、中堅どころか、指導的地位についているのである。ウィーンフリード・ハッセマーのように、連邦憲法裁判所の裁判官に選ばれ、就任した例もある。

⑤ 今回は、従来のように、既発表の刑事法学者の業績を追加し、新人を加えるという手法をとるのではなくて、これまでの追録に登場しなかった『新人』のみ72人の略歴と業績を収録することにした。この仕事は、1994年夏休みを使って、1984年の『追録』までに登載していなかった若手の刑事法学者の業績チェックに始まり、第一稿の清書が終了した95年4月に65人の『新人』に手紙を出して、返事を待つことで一段落となった。回答の期限として設定した10月末迄に、55人から返事が来た。その間、さらに、教授資格を取得したと思われる人の文献を見つけるたびに、論文チェックを続け、五月雨式に到達する返事をファイルし、本年3月に、第二稿を仕上げた。『新人』の総数は、70人になった。そして、5月に、トリエー大学で日本刑法の講義をするために滞在した間に、さらに2人の業績を知り、問い合わせをした結果、回答があったので、今回発表するように、72人の『追録Ⅷ』が仕上がった。ただ、数人の人からは、いまだに返事が無い。もっとも、その多くは、業績の少ない人達であるので、追い打ちをかけるのを控えることにした。

⑥ 日本の刑事法研究者が、日本というコップの中の嵐に気をとられているうちに、ドイツのみならず、ヨーロッパ、北アメリカの学問は大きく変化している。日本の刑事法学の現状を率直に見れば、旧態依然たる『理論』や『学説』が横行し、『新しい理論』とは名ばかりで、中には、19世紀へと『先祖帰り』したとしか言いようのない議論にうつつを抜かしている有り様である。その現状は、あたかも、『概念法学の再来』と評しうるような言葉・論理・屁理屈のオン・パレードである。刑事法の議論が、犯罪者にも被害者にも説得力を持たず、国民の常識に合わない仲間内の空論に終始していることは、あまりにも不健全であり、不毛である。

⑦ もちろん、ドイツ刑法学の現状を批判的に検討すると、そこにも、相変わらずの『概念遊戯』に類した議論が見られなくはないが、多くの若手研究者は、時代思潮に敏感に反応し、刑事政策的な解決をも加味し、憲法（基本法）秩序を念頭に置いて、実務上の問題解決に資するための論拠を提供するべく、工夫をこらしている。

⑧ 日本の学問が、今日のように、枝葉末節な、口先だけの議論に終始したり、図式的な早分かり、表面的な整合性で満足している理由の一つは、司法試験用の知識の切り売り、妙に分かったような割り切った議論で結論を急ぎ、既存の知識と新しみのない情報を整理することが学問であると錯覚しているところにあると考える。他の理由として、時代の要請に対応して、刑事法を迅速に改正するという努力がなされていない、刑事立法の現状にも責任がある。その結果、『法治国』とは到底思われぬような法的現実が横行している。日本の現実、特に、刑事立法の現実、は、すべての大事なことを先送りする『放置国』に墮

していると言っても過言ではない。新しい社会の動きに応じ、我が国にも多くの社会的変化が起き、その中には、市民生活にとって好ましくない事態を引き起こしているものも多いし、第一、犯罪者は、社会の変化により生じた社会の脆弱点を巧みに突き、利益を上げようと図る。このような動きを先取りし、法的平和の確保に努力すべき刑事立法の現実には、見るべき努力が無いのである。法律が動かなければ、判例にも変化が見られず、このように沈滞した社会においては、学問もまた停滞する。しかも、『新しい体系書』とやらは、専ら司法試験受験生を目当てに書いた、何の新しみの無い、同工異曲の本ばかりである。しかも、若い著者の中には、外国学説や学説史など、受験勉強にとって時間の浪費であり、外国の新しい学説など、何の参考にもならないと公言して憚らない徒輩がいると聞いている。これを学問の墮落と言わずして、何と表現すべきか言葉を知らない。

⑨ この資料集から推測できるように、ドイツ刑法学の担い手である若い刑法学者たちは、次々になされる刑事法の改正、応接に暇のない新しい判例の洪水に直面し、しかも次第に増加する法律学科の学生の大群を相手にしながら、単に法律学の議論に終始するのではなく、社会理論、哲学の新しい動向に敏感に反応しながら、絶えず、新しいテーマを求めて模索し、工夫を重ねている。私は、この資料集が、特に、大学院で懸命に精進を重ねている若い世代に存分に利用されることを願って止まない。閉塞した日本の刑事法の現実の袋小路でもがいている次の世代を担う若者に、何らかの光明を見いだす助けになれば幸いである。そして、既に何回も言っているように、『武器の平等』『対等な学問上の戦い』の理想を実現するため、この資料集に出てくる文献を早く手にしたい方には、私の手元にある文献に関する限り、喜んで提供するし、それが無い場合でも、原著者からすぐに取り寄せることを仲介する用意がある。私にとって、国際性のある真摯な討論を通じて、学問を一生の仕事とする喜びを共有する仲間の輪が次第に広がって行くことを希望してやまない。

1996年6月20日

追記

「法学研究」は、慣例により、各巻の最後の号と次巻の最初の号とを、定年退職者のための記念号にしている。1997年3月をもって慶應義塾大学法学部を退職する3人の専任教員のための記念号が企画されているため、本稿は、分載して発表されることとなった。刑事法学者の姓の頭文字AからJまでの分は、69巻10、11号に、KからZまでの分は、70巻3、4、5号に分載されることとなる。

利用者には、不便をおかけすることになるが、了解していただきたい。

ハンス＝イエルク・アルブレヒト (Hans-Jörg Albrecht)

1950年1月24日に、エスリンゲンに生まれた。同市のギムナジウムを卒業後、1968年冬学期にチュービンゲン大学、1970年夏学期にフライブルク大学で法律学を勉強し、1974年6月に第1次国家試験に合格し、司法修習生となり、併せて、マックス・プランク・外国国際刑法研究所の副手を務め、1976年7月、第2次国家試験に合格した。ほぼ同時期に、マックス・プランク研究所の助手となった。1979年に、Strafzumessung und Vollstreckung bei Geldstrafen unter Berücksichtigung des Tagessatzsystems. Geldstrafe im System strafrechtlicher Sanktionen, 1980により、学位を取得した。教授資格は、同じく、ギュンター・カイザー教授の受理した Strafzumessung bei schwerer Kriminalität-Eine vergleichende theoretische und empirische Studie zur Herstellung und Darstellung des Strafmaßes, 1994により獲得した。

1992年4月に、コンスタンツ大学教授となったが、1993年10月に、ドレスデン工科大学法学部の招聘を受諾し、赴任した。1995年に、引退したカイザー教授の後任として、マックス・プランク・外国国際刑法研究所の犯罪学研究部門の所長に就任した。

Geboren am 24. Januar 1950 in Esslingen. Nach der Abitur dort Studium der Rechtswissenschaften ab Wintersemester 1968, Universität Tübingen, ab Sommersemester 1970, Universität Freiburg. Erstes Juristisches Staatsexamen Juni 1973, 1974-1976 Referendar. Nebenamtlich wissenschaftliche Hilfskraft am MPI f. ausländisches und internationales Strafrecht 1973-1976. Juni 1976 Zweites Juristisches Staatsexamen. Ab Juli 1976 wissenschaftlicher Referent am MPI. Promotion Juli 1979. Habilitation Dezember 1991. Ab April 1992 Prof. Konstanz, Ab Oktober 1993 Prof. Technische Universität Dresden. WS 1996 Direktor des MPI, Freiburg als Nachfolger von Günther Kaiser.

著書・共編著

Legalbewährung bei zu Geldstrafe und Freiheitsstrafe Verurteilten, 1982.

H.-J. Albrecht-U. Sieber (Hrsg.), Zwanzig Jahre Südwestdeutsche Kriminologische Kolloquien, 1984.

H.-J. Albrecht-Wolfram Schädler (Hrsg.), Community Service, Gemeinnützige Arbeit, Diensverlening, Travail d'Interêt Général. A new opinion in punishing offenders in Europe, 1986.

Hansjörg Adam-H.-J. Albrecht-Christian Pfeiffer, Jugendrichter und Jugendstrafanwälte in der Bundesrepublik Deutschland, 1986.

H.-J. Albrecht-R. Wolff-P. Strunk, Gewalt gegen Kinder Das Phänomen der Kindesmißhandlung aus sozialpsychologischer, kriminologischer und jugendpsychiatrischer Sicht, 1986

F. Sack-H.-J. Albrecht et al., Jugendkriminalität und Jugendarbeitslosigkeit, 1987.

G. Kaiser-H. Kury-H.-J. Albrecht (Hrsg.), Kriminologische Forschung in den 80er Jahren. Berichte aus der Bundesrepublik Deutschland, der Deutschen Demokratischen Republik, Österreich und der Schweiz, Bd. 1, 2. 1988.

Kaiser-Kury-Albrecht (eds.), *Criminological research in the 80's and beyond. Reports from the Federal Republic of Germany, German Democratic Republic, Austria, Switzerland*, 1988.

F. Pallin-H.-J. Albrecht-J. Fehérváry, *Strafe und Strafzumessung bei schwerer Kriminalität in Österreich*, 1989.

H.-J. Albrecht-Anton van Kalmthout (eds.), *Drug Policies in Western Europe*, 1989.

G. Kaiser-H.-J. Albrecht (eds.), *Crime and Criminal Policy in Europe. Proceedings of the II. European Colloquium on Crime and Public Policy*, 1990.

Kaiser-Kury-Albrecht (eds.), *Victims and Criminal Justice*. 3 Bde, 1991.

H.-J. Albrecht-Otto (eds.), *Social Prevention and the social Sciences. Theoretical Controversies*, 1991.

H.-J. Albrecht-S. Leppä (eds.), *Criminal Law and the Environment*, 1992.

H.-J. Albrecht-Josef Kürzinger (Hrsg.), *Kriminologie in Europa-Europäische Kriminologie? Kolloquium aus Anlaß des 65. Geburtstags von Prof. Dr. h.c.mult. Günther Kaiser*, 1994.

Kinderhandel. Der Stand des empirischen Wissens im Bereich des (kommerziellen) Handels mit Kindern, 1994.

Aufsätze

- 1 Bericht über das Colloquium „Die Erledigung von Wirtschaftsstrafsachen durch Staatsanwaltschaften und Gerichte“ anläßlich der Sitzung des Kuratoriums des Max-Planck-Instituts f. ausl. u. intern. Strafrecht am 12. 2. 1977 in Freiburg. ZStrW Bd. 89, 1977, S. 1088-1102.
- 2 Décriminalisation et politique criminelle. Quarderni, *Politique criminelle et droit pénal*, 1978, S. 120-135.
- 3 H.-J. Albrecht-Rudolf Fenn, Härtere Strafen und weniger Psychologie? Krim 1978, S. 359-363.
- 4 H.-J. Albrecht-B. Villmow, Plädoyer für mehr Mut bei der deutschen kritischen Kriminologie. KrimJ 1978, S. 308-314.
- 5 Statistische Angaben über die Geldstrafe in der Bundesrepublik Deutschland. H.-H. Jescheck (Hrsg.), *Die Geldstrafe im deutschen und ausländischen Recht*, 1978, S. 165-191.
- 6 B Villmow-H.-J. Albrecht, Die Vergleichung als Methode der Strafrechtswissenschaft und der Kriminologie. Tagungsbericht über ein internationales Kolloquium. MSchr-Krim 1979, S. 163-170.
- 7 Die Geldstrafe als Mittel moderner Kriminalpolitik. Jescheck-Kaiser (Hrsg.), *Die Vergleichung als Methode der Strafrechtswissenschaft*, 1979, S. 235-255.
- 8 Alternatives to Incarceration. C.R. Dodge (ed.), *A World Without Prisons*, 1979, S. 159-179.
- 9 H.-J. Albrecht-Th. Weigend, Über die wesentlichen strafrechtlichen Bestimmungen

- zum Schutz des Kindes in der Bundesrepublik Deutschland. Aktuelle Beiträge der Staats- und Rechtswissenschaft. Akademie der Staats- und Rechtswissenschaften der DDR (Hrsg.), Der strafrechtliche Schutz des Kindes. Bd. 1, 1980, S. 56-65.
- 10 H.-J. Albrecht - E. H. Johnson, Fines and Justice Administration: The Experience of the Federal Republic of Germany. International Journal of Comparative and Applied Criminal Justice (IJCACJ), 4, 1980, S. 4-14
- 11 H.-J. Albrecht - U. Sieber, Evaluation von Behandlungsprogrammen im Strafvollzug und Wirtschaftsdelinquenz multinationaler Unternehmen. 15. Colloquium der Südwestdeutschen Kriminologischen Institute MSchrKrim 1980, S. 162-172.
- 12 Jugendstrafrecht-Kontrolle oder Hilfe? H. Wollenweber (Hrsg.), Kinderdelinquenz und Jugendkriminalität, 1980, S. 75-97.
- 13 Die generalpräventive Effizienz von strafrechtlichen Sanktionen. Forschungsgruppe Kriminologie (Hrsg.), Empirische Kriminologie, 1980, S. 305-327.
- 14 Die Geldstrafe im System strafrechtlicher Sanktionen - Prozesse der Strafzumessung und Beitreibung von Geldstrafen, sowie die Legalbewährung von zu Geldstrafe und Freiheitsstrafe Verurteilten Ibid, 1982, S. 242-263.
- 15 Alternativen zur Freiheitsstrafe Das Beispiel der Geldstrafe. MSchrKrim 1981, S. 265-278.
- 16 H.-J. Albrecht - F. Dünkler - G. Spieß, Empirische Sanktionsforschung und die Begründbarkeit von Kriminalpolitik. MSchrKrim 1981 S. 310-326.
- 17 Bericht über das Kolloquium zum DFG-Schwerpunktprogramm „Empirische Sanktionsforschung - Genese und Wirkungen von Sanktionsnormen und Sanktionen“. MSchrKrim 1981, S. 383-388.
- 18 Struktur der Zumessung und Beitreibung von Geldstrafen in der Bundesrepublik Deutschland. Auswirkungen des 1. Strafrechtsreformgesetzes und der Einführung des Tagessatzsystems unter Einbeziehung der Legalbewährung von zu Geldstrafe und zu Freiheitsstrafe Verurteilten. Österr. JZ 1981, S. 10-14.
- 19 H.-J. Albrecht - F. Dünkler, Die vergessene Minderheit - Alte Menschen als Straftäter. ZSchr f. Gerontologie Bd. 14, 1981, S. 259-245.
- 20 Kindesmißhandlung und strafrechtliche Sozialkontrolle. ZBJR 1981, S. 4-10.
- 21 The Fine in the German Penal Sanctioning System. Criminological Research Unit (ed.), Research in Criminal Justice, 1982, S. 225-245.
- 22 Criminal Law and General Prevention Ibid, S. 286-307.
- 23 Die Bewährungshilfe im Strafrecht der Deutschen Demokratischen Republik. BewHi 1983, S. 283-291.
- 24 Probleme der Implementierung des Umweltstrafrechts. MSchrKrim 1983, S. 278-294.
- 25 Jugendkriminalität im Spiegel neuerer kriminologischer Literatur. ZSchr.f. Pädagogik, Bd. 25, 1983, S. 117-137

- 26 Kriminologische Aspekte der Rückfallkriminalität und des Rückfalls H.-H. Jescheck-G. Kaiser (Hrsg.), Erstes deutsch-polnische Kolloquium über Strafrecht und Kriminologie, 1983, S. 101-131.
- 27 Jugendkriminalität als internationales soziales Problem. M. Brusten-P. Malinowski (Hrsg.), Jugend-ein soziales Problem?, 1983, S. 184.-202.
- 28 Strafrecht und Strafaussetzung zur Bewährung in der Volksrepublik China. F. Dünkel-G. Spieß (Hrsg.), Alternativen zur Freiheitsstrafe, 1983, S. 332-352.
- 29 Gleichmäßigkeit und Ungleichmäßigkeit in der Strafzumessung. H. J. Kerner - H. Kury-K. Sessar (Hrsg.), Deutsche Forschungen zur Kriminalitätsentstehung und Kriminalitätskontrolle. Teilband 2, 1983, S. 1297-1332.
- 30 General Prevention and Social Control. Annales UMC Sectio G 1984, S. 147-164
- 31 Die Kriminalitätsentwicklung in der Bundesrepublik Deutschland. BewHi 1984, S. 37-52
- 32 Recidivism after Fines, Suspended Sentences, and Imprisonment. IJCACJ Bd. 8, 1984, S. 199-208.
- 33 Jugendarbeitslosigkeit und Jugendkriminalität. KrimJ 1984, S. 218-228.
- 34 H.-J. Albrecht-Rudolf Egg-Hans-Peter Frey, Bericht über das 8. u. 9. Treffen kriminologischer Forschungsinstitute (Freiburg-Nürnberger Gespräche). MSchrKrim 1984, S. 211-218.
- 35 H.J. Albrecht-G. Heine-V. Meinberg, Umweltschutz durch Strafrecht? Empirische und rechtsvergleichende Untersuchungsvorhaben zum Umweltstrafrecht und zur Umweltkriminalität. ZStrW Bd 96, 1984, S. 943-998
- 36 Datenschutz und sozialwissenschaftliche Forschung Sozialwissenschaften und Berufspraxis, 1984, S. 5-21.
- 37 Präventive Aspekte der Verfahrenseinstellung im Jugendstrafrecht. M. Walter-G. Koop (Hrsg.), Die Einstellung des Strafverfahrens im Jugendstrafrecht. Chancen und Risiken eines neuen kriminalpolitischen Weges sowie Erfahrungen und Anregungen aus der Praxis, 1984, S. 51-78
- 38 Diversion durch den Jugendstaatsanwalt-Bedingungen für eine angemessene Handhabung des § 45 JGG. DVJJ (Hrsg.), Jugendgerichtsverfahren und Kriminalprävention, 1984, S. 151-166.
- 39 Problems of Policing Ethnic Minorities in the Federal Republic of Germany. J. Brown (ed.), Policing and Social Policy, 1984, S. 28-35.
- 40 Role and Response of the Juvenile Justice System to Delinquency in the Federal Republic of Germany. ASPAC (ed.), Proceedings of the Third Asian-Pacific Conference on Juvenile Delinquency, 1984, S. 63-87.
- 41 Ambulante Straffälligenhilfe im internationalen Vergleich. B. Maelicke-H. Ortner (Hrsg.), Ambulante Straffälligenhilfe, 1984, S. 15-48.

- 42 Umweltkriminalität und Umweltstrafrecht. Aus Politik und Zeitgeschichte 11, 1985, S. 17-29.
- 43 Ansätze und Perspektiven für die gemeinnützige Arbeit in der Strafrechtspflege. BewHi 1985, S. 121-134.
- 44 Alkohol und Kriminalität. Theoretische Verknüpfungen und empirische Befunde. BewHi 1985, S. 345-357.
- 45 Zusammenhänge zwischen Umweltstrafrecht und offiziell registrierter Umweltkriminalität. Der Landkreis. Zeitschr. f. kommunale Selbstverwaltung 55, 1985, S. 411-414.
- 46 H.J. Albrecht-U. Sieber, Bericht über das 20. Kolloquium der Südwest-deutschen Kriminologischen Institute. MSchrKrim 1985, S. 244-248.
- 47 Perspektiven der kriminologischen Forschung in der Bundesrepublik Deutschland. H. Kury (Hrsg.), Kriminologische Forschung in der Diskussion: Berichte, Standpunkte, Analyse, 1985, S. 141-168.
- 48 Datenschutz und Forschungsfreiheit. Computer + Recht 2, 1986, S. 92-100.
- 49 Criminal Law and Drug Control. IJCACJ Bd. 10, 1986, S. 41-60.
- 50 Alternativen zur Jugendstrafe. kriminologische Befunde zum Vergleich freiheitsentziehender und ambulanter Sanktionen. Krim Bul. Bd. 11, 1986, S. 47-76.
- 51 H.-J. Albrecht-Wolfram Schädler, Gemeinnützige Arbeit: current trends in complementing community service as an additional opinion for fine defaulters in the Federal Republic of Germany. Albrecht-Schädler (eds.), Community Service, 1986, S. 173-190.
- 52 Albrecht-Schädler, Community Service in Europe. Concluding remarks. Ebenda, S. 191-195.
- 53 H.-J. Albrecht-Günter Heine-Volker Meinberg, Umweltstrafrecht und Umweltkriminalität. M. Brusten et al. (Hrsg.), Kriminologie im Spannungsfeld von Kriminalpolitik und Kriminalpraxis, 1986, S. 193-228.
- 54 Strafrechtsvereinheitlichung in Westeuropa-Das Betäubungsmittelstrafrecht. 9. Strafverteidigertag 1986, S. 41-71.
- 55 Entwicklungstendenzen des Jugendkriminalrechts und stationäre Freiheitsentziehung bei jugendlichen Straftätern in den USA. Dünkel-Meyer (Hrsg.), Jugendstrafe und Jugendstrafvollzug. Bd. 2, 1986, S. 1211-1306.
- 56 Ansätze und Perspektiven für die gemeinnützige Arbeit in der Strafrechtspflege. H.-J. Kerner-Otto Kästrer (Hrsg.), Gemeinnützige Arbeit in der Strafrechtspflege, 1986, S. 60-86.
- 57 G. Kaiser-W. Heinz-H.-J. Albrecht-Rüdiger Ortmann-G. Spieß, Korhotenuntersuchungen-Anlage und methodische Probleme von kriminologischen Folgerungen zur Kriminalitätsentwicklung und -entstehung. H. Kury (Hrsg.), Entwicklungstendenzen kriminologischer Forschung, 1986, S. 163-185.
- 58 Schwangerschaftsabbruch-empirische Untersuchungen zur Implementation der straf-

- rechtlichen Regulierung des Schwangerschaftsabbruchs. Eser – Kaiser – Ewa Weigend (Hrsg.), Zweites deutsch-polnisches Kolloquium über Strafrecht und Kriminologie. Rechtfertigung und Entschuldigung, Schwangerschaftsabbruch, Gewaltkriminalität, Stellung des Verletzten, 1986, S. 195–223.
- 59 Drogenpolitik und Drogenstrafrecht. BewHi 1987, S. 267–279.
- 60 Die sanfte Minderheit – Mädchen und Frauen als Straftäterinnen. BewHi 1987, S. 341–358.
- 61 Ethnic minorities and the criminal justice system in the Federal Republic of Germany. Howard Journal of Criminal Justice Bd. 26, 1987, S. 272–286, auch in: R. Hood (ed.), Crime and Public Policy in Europe, 1989, S. 174–181 u. F. Heidensohn-M. Farrell (Hrsg.), Crime in Europe, 1991, S. 84–102.
- 62 Umweltstrafrecht und Verwaltungsakzessorietät – Probleme und Folgen einer Verknüpfung verwaltungs- und strafrechtlicher Konzepte. KrimSozBiol., 1987, 55, S. 1–22.
- 63 Internationale Polizeikooperation – Stand und Auswirkungen im Bereich der Betäubungsmitteldelikte. 10. Strafverteidigertag, 1987, S. 192–206.
- 64 Theorie und Empirie in der kriminologischen Ausbildung. F. Sack et al. (Hrsg.), Kriminologie als selbständiges, interdisziplinäres Hochschulstudium, 1987, S. 233–247.
- 65 Landesbericht Deutschland. A. Eser – J. Meyer (Hrsg.), Betäubungsmittelstrafrecht in Westeuropa, 1987, S. 63–168.
- 66 Konzept und Supervision – Ihr Verhältnis bei gelungenen Alternativen in der Strafrechtspflege. N. Lippenmeier (Hrsg.), Was kann Supervision leisten?, 1987, S. 261–277.
- 67 Umweltkriminalität. K. Liebl (Hrsg.), Internationale Forschungsergebnisse auf dem Gebiet der Wirtschaftskriminalität, 1987, S. 16–27.
- 68 Kriminell weil arbeitslos? Arbeitslos weil kriminell? BewHi 1988, S. 133–148.
- 69 Zur Reform des Jugendstrafrechts in der Bundesrepublik Deutschland, in Österreich und in der Schweiz. Recht der Jugend und des Bildungswesens (RdJBW), 1988, S. 387–398.
- 70 H.-J. Albrecht – W. Schädler, Die gemeinnützige Arbeit auf dem Weg zur eigenständigen Sanktion? ZRP 1988, S. 278–283.
- 71 Präventionsprogramme im Betrieb: Eine neue Form sozialer Kontrolle am Arbeitsplatz? Drogalkohol 12, 1988, S. 37–57.
- 72 Die Effizienz der Kriminalprävention aus wissenschaftlicher Sicht. BKA (Hrsg.), Symposium: Der polizeiliche Erfolg, 1988, S. 387–398.
- 73 H.-J. Albrecht – S. Monita, Escalation and Specialization. A comparative analysis of patterns in criminal careers G. Kaiser – I. Geissler (eds.), Crime and Criminal Justice, 1988, S. 115–136.
- 74 Freie Straffälligenhilfe im internationalen Vergleich. Evangelische Akademie Bad Boll (Hrsg.), Straffälligenhilfe – Quo vadis?, 1988, S. 12–21.

- 75 Particular Difficulties in Enforcing the Law Arising out of Basic Conflicts Between the Different Agencies Regarding the Best suited Reactions upon Highly Sensitive Kinds of Crime. Europarat (ed.), Interactions within the Criminal Justice Systems, 1988, S. 41-82.
- 76 H.-J. Albrecht-Isolde Geissler, Die Kriminologie und ihre Konzeptionen: Kriminalität als Herausforderung, Strategien der Bewältigung. Bericht über den 10 Internationalen Kongreß für Kriminologie v. 5. bis 9. 9. 1989 in Hamburg. ZStrW Bd. 101, 1989, S. 771-789.
- 77 Sozialwissenschaftliche Forschung und die Entwicklung des Datenschutzes. H.R. Schneider et al. (Hrsg.), Der Bürger im Datenschutz? Datenbedarf und Datenschutz in Sozialforschung, Sozialplanung und Praxisberatung, 1989, S. 69-86.
- 78 Die Entwicklung des Strafzumessungsrechts im internationalen Vergleich. Strafrecht, Strafprozeßrecht und Kriminologie Festschr. f. Pallin, 1989, S. 11-30.
- 79 Drogen und Recht. Das Spannungsfeld zwischen Strafschärfung und Liberalisierung. SPD-Landesverband / SPD-Landtagsfraktion (Hrsg.), Suchtabhängigkeit - Herausforderung für das Leben, 1989, S. 15-36.
- 80 Landesbericht Bundesrepublik Deutschland. J. Meyer - A. Dessecker - J.R. Smettan (Hrsg.), Gewinnabschöpfung bei Betäubungsmitteldelikten, 1989, S. 25-84.
- 81 Comparative Research on Crime and Delinquency-the Role and Revelance of National Penal Codes and Criminal Justice Systems. M.W. Klein (ed.), Cross-National Research in Self-Reported Crime and Delinquency, 1989, S. 227-248.
- 82 Drug Policy in the Federal Republic of Germany. H.-J. Albrecht et al. (eds.), Drug Policies in Western Europe, 1989, S. 175-194.
- 83 Strafzumessung bei schwerer Kriminalität. Ch. Pfeiffer—M. Oswald (Hrsg.), Strafzumessung. Empirische Forschung und Strafrechtsdogmatik, 1989, S. 59-70
- 84 Alkoholprävention im Betrieb. Probleme sozialer Kontrolle bei der Umsetzung von Alkoholpräventionsprogrammen. Hauptstelle gegen die Suchtgefahren (Hrsg.), Suchtprobleme am Arbeitsplatz, 1989, S. 123-135.
- 85 Strafzumessung bei schwerer Kriminalität im Vergleich. Theoretische Konzeptionen und empirische Befunde. ZStrW Bd. 102, 1990, S. 596-626.
- 86 Die Suchtgiftgesetzgebung im internationalen Vergleich. C. Frank-G. Harrer (Hrsg.), Drogendelinquenz-Jugnedstrafrechtsreform. Forensia-Jahrbuch Bd. 2, 1990, S. 69-87.
- 87 Braucht die Politik die Amnestie? Anmerkungen zum Problem der Amnestie aus der Perspektive der Rechtsentwicklung im Ausland. W. Greve (Hrsg.), Amnestie, Gnade, Politik, 1990, S. 67-95.
- 88 Möglichkeiten und Grenzen des Umweltstrafrechts zur Erzwungung umweltverträglichen Verhaltens. Polizeiführungsakademie (Hrsg.), Umweltkriminalität, 1990, S. 169-188.

- 89 Kriminologische Perspektiven der Wiedergutmachung. Theoretische Ansätze und empirische Befunde. Eser-Kaiser-Madlener (Hrsg.), Neue Wege der Wiedergutmachung im Strafrecht. 1990, S. 43-72.
- 90 Fines in the Criminal Justice System. H.-J. Kerner-K. Sessar (Hrsg.), Recent Developments in Crime and Crime Control Research, 1990, S. 150-169.
- 91 Das Jugendstrafverfahren gegenüber „Mehrfach auffälligen“. DVJJ (Hrsg.), Mehrfach auffällige-Mehrfach Betroffene. Erlebnisweisen und Reaktionsformen, 1990, S. 86-98.
- 92 Evaluating the Impact of Criminal Law: The Case of Environmental Statutes. Albrecht-Otto (eds.), Social Prevention and the Social Sciences. Theoretical Controversies, 1991, S. 467-478.
- 93 H.-J. Albrecht-J. Arnold, Research on Victimization and Related Topics in the Federal Republic of Germany-A Selection of Research Problems and Results Kaiser et al. (eds.), Victims and Criminal Justice. Bd. 1, 1991, S. 19-36
- 94 Voraussetzungen und Konsequenzen einer Entkriminalisierung im Drogenbereich. Institut f. Konfliktforschung (Hrsg.), Entkriminalisierung im Drogenbereich?, 1991, S. 1-38.
- 95 Les Politiques de Prévention: Bilan des Connaissances en Republique Fédérale d'Allemagne. Ph. Robert (ed.), Les Politique de Prévention de la Delinquence. 1991, S. 43-56.
- 96 Strafungleichheit-notwendiges Element einer sich verändernden Strafpraxis oder Verletzung des Gerechtigkeitsgedankens? W. Greive (Hrsg.), Mehr Transparenz in der Strafjustiz, 1991, S. 72-80.
- 97 Gewalt gegen Kinder aus kriminologischer Sicht. Bayerisches Staatsministerium f Arbeit, Familie, Sozialordnung (Hrsg.), Gewalt gegen Kinder. Dokumentation, 1991, S. 67-98.
- 98 La production de l'ordre public et du controle pénal-Problèmes théoretiques, donnees empiriques et orientations de la recherche en R.F.A. Déviance et Société. vol. 16, 1992, S. 87-111, auch Ph. Robert-L. Outrive (eds.), Crime et Justice en Europe. État des Recherches, Evaluations et recommandations. 1993. S. 329-364.
- 99 H.-J. Albrecht-R. Teske, Prosecution and Sentencing Patterns in the Federal Republic of Germany. International Criminal Justice Review. vol. 2, 1992, S. 76-104.
- 100 Neuere Kommentare zum Jugendgerichtsgesetz RdJBW 1992, S. 158-164
- 101 Präventive Notwendigkeit jugendkriminalrechtlicher Interventionen-jenseits von Diversionen und Täter-Opfer-Ausgleich BM d. Justiz (Hrsg.), Grundfragen des Jugendkriminalrechts und seiner Neuregelung, 1992, S. 254-269.
- 102 Gemeinde und Kriminalität. Perspektiven der kriminologischen Forschung. H. Kury (Hrsg.), Gesellschaftliche Umwelzung. Kriminalitätserfahrungen, Straffälligkeit und soziale Kontrolle. Das erste deutsch-deutsche Kolloquium, 1992, S. 33-54.
- 103 The Role of Administrative Agencies and the Judiciary in the Prevention and Suppres-

sion of Environmental Crimes. H.-J. Albrecht-S. Leppä (eds.), *Criminal Law and the Environment*, 1992, S. 196-210.

- 104 Survey on Cooperation and Communication between Authorities in the Field of Controlling Harm to the Environment. Ibid, S. 228-249.
- 105 Drogenpolitik und Drogenstrafrecht. Entwicklungen und Tendenzen. BewHi 1991, S. 5-25.
- 106 Rechtsstaatliche Möglichkeiten der Vereinfachung des Strafverfahrens. Eser-Kaiser E. Weigend (Hrsg.), *Von totalitärem zu rechtsstaatlichem Strafrecht. Kriminalpolitische Reformtendenzen im Strafrecht osteuropäischer Länder*. 1993, S. 557-578.
- 107 Tatumstandsirrtum und Verbotsirrtum: Gleichbehandlung trotz Differenzierung. Festschr. f. Prof. Dr. Hae-Mock Sonn, 1993, S. 209-224.
- 108 Crime and Prevention Policy: The State of Knowledge in the Federal Republic of Germany. Ph. Robert (ed.), *Crime and Prevention Policy*. 1993, S. 33-48.
- 109 Europa 1992—Konsequenzen (im Suchtbereich) aus strafrechtlicher Sicht. Suchtgefahren vol. 39, 1993, S. 98-104
- 110 Sentencing and Disparity - A comparative View. *European Journal on Criminal Policy and Research*. vol. 2, 1994, S. 98-104
- 111 Ist das Strafverfahren noch zu beschleunigen? NJ 1994, 396-400.
- 112 Die Entwicklung des Züchtigungsrechts. RdJBW 1994, S. 198-207.
- 113 Das gesetzliche Instrumentarium zur Bekämpfung der Rauschgiftkriminalität. R. Sauer-J. Singer (Hrsg.), *Keine Macht den Drogen*, 1994, S. 65-79.
- 114 Die Kanabisescheidung des Bundesverfassungsgerichts aus kriminologischer Sicht. RdJBW 1995, S. 136-147.
- 115 Kindliche Opferzeugen im Strafverfahren. Ludwig Salgo (Hrsg.), *Vom Umgang der Justiz mit Minderjährigen. Auf dem Weg zum Anwalt des Kindes*, 1995, S. 3-30.

アルワート (Heiner Alwart)

1951年9月13日、ハンブルクに生まれた。ハンブルク大学で法律学を学び、シュミット・ホイザー教授の下で研究し、1980年に論文 *Strafwürdiges Versuchen*, 1982 で学位を取得し、1986年には、論文 *Recht und Handlung. Die Rechtsphilosophie in ihrer Entwicklung vom Naturrechtsdenken und vom Positivismus zu einer analytischen Hermeneutik des Rechts*, 1987 で教授資格を得、ハンブルク大学私講師となり、以後、バーゼル、マールブルク、ポッフム、ベルリン、イエーナの各大学で、講師をして今日に至っている。

Geboren am 13. September 1951 in Hamburg. Studium der Rechtswissenschaften in Hamburg. 1980 Promotion, 1986 Habilitation, beide bei Schmidhäuser. Lehrtätigkeit als PD in Hamburg, Basel /Schweiz, Marburg, Bochum, Berlin und Jena.

Aufsätze

- 1 Der Begriff des Motivbündels im Strafrecht-am Beispiel der subjektiven Rechtfertigung-

- selemente und des Mordmerkmals Habgier. GA 1983, S. 433-456.
- 2 Zur Kritik der strafrechtlichen Stufenlehre. GA 1986, S. 245-252.
 - 3 Über die Hypertrophie eines Unikums (§ 265a StGB). JZ 1986, S. 563-569.
 - 4 Darf ein Angeklagter aus Mangel an Beweisen verurteilt werden? Eine Studie zur Überzeugungsbildung des Strafrichters (§ 261 StPO). GA 1992, S. 545-568.
 - 5 O. Höffes „Rehabilitierung“ der Naturrechtslehre. JZ 1990, S. 473-479.
 - 6 Personale Öffentlichkeit (§ 169 GVG). JZ 1990, S. 883-896.
 - 7 Strafrechtliche Haftung des Unternehmens. ZStrW Bd. 105, 1993, S. 752-773.
 - 8 L'herméneutique et la philosophie du droit analytique. in: G. Planty-Bonjour u. R. Legais (ed.), L'évolution de la philosophie du droit en Allemagne et en France, 1991, S. 161-180.
 - 9 Wahrheit und Recht, Dürrenmatt und (Straf-) Justiz. Jahrgabe 1995/96 der Ortsvereinigung Hamburg der Goethe-Gesellschaft in Weimar e.V.

アーノルト (Jörg Arnold)

1957年5月28日、ドレスデン近郊のラーデボイルに生まれた。1986年に、エーリッヒ・ブーフホルツ教授に提出した論文 *Strafzumessung bei jugendlichen Ersttätern* dargestellt am Ausspruch und der Ausgestaltung der Verurteilung auf Bewährung bei Eigentumsstraftaten und unbefugter Benutzung von Fahrzeugen, 1986 により、学位を取得し、教授資格は、同教授とホルスト・ルター教授に受理された論文 *Die Kassation im Strafverfahren der DDR*, 1989 により、獲得した。1982年から89年まで裁判官であり、1994年に、ベルリンのフンボルト大学私講師となり、1995年に、フライブルクのマックスプランク・外国国際刑法研究所の研究員となった。

Geboren am 28. Mai 1957 in Radebeul bei Dresden. Promotion an Humboldt-Universität zu Berlin bei Erich Buchholz (1986), Habilitation ebenda bei E. Buchholz und Horst Luther (1989). Richter in der DDR von 1982 bis 1989. PD an der Humboldt-Universität zu Berlin seit 1994. Seit 1995 Referent am MPI f. ausl. u. intern. Strafrecht Freiburg.

著書

Die Normalität des Strafrechts der DDR, Bd. 1 : Gesammelte Beiträge und Dokumentation, 1995.

Aufsätze

- 1 J. Arnold-Erich Buchholz, Die Rolle von Strafzumessungstheorien in der BRD. NJ 1983, S. 240-242.
- 2 Weitere Überlegungen zur Rolle des Jugendbeistandes. Der Schöff 30, 1983, S. 106-109.
- 3 Zum Wesen von Strafzumessungstheorien der BRD. Durchsetzungsprobleme des Völkerrechts-Kriminalität, Strafrecht und Kriminologie des Imperialismus, 1983, S. 149-163.

- 4 Rudi Beckert-J. Arnold, Entschädigung für Untersuchungshaft und Strafe mit Freiheitsentzug gemäß §§ 369 ff. StPO. Der Schöff 33, 1986, S. 235-238 u. 252.
- 5 Überlegungen zur Verwendung des Begriffs „Täterpersönlichkeit“ aus der Sicht der Strafrechtspraxis. Staat u. Recht 35, 1986, S. 409-414.
- 6 Zu Fragen der gerichtlichen Beweisaufnahme und Wahrheitsfindung im sozialistischen Strafprozeß. Informationen des Obersten Gerichts der DDR. Heft 5/1986, S. 48-69.
- 7 Zur Strafzumessung bei jugendlichen Tätern. NJ 1987, S. 100-101.
- 8 Rolf Schröder-J. Arnold, Zu einigen Fragen des Grundsatzes „in dubio pro reo“ sowie Probleme der Aufklärung der Persönlichkeit des Täters in der gerichtlichen Beweisaufnahme. NJ 1987, S. 416-418.
- 9 Zu ausgewählten Problemen der Strafzumessung bei jugendlichen Tätern. Vorbeugung und Bekämpfung der Jugendkriminalität in der DDR. Teil II. Berichte der Humboldt-Universität zu Berlin, 1988, S. 3-22.
- 10 R. Beckert-J. Arnold, Zum 40. Jahrestag des Obersten Gerichts der DDR. Der Schöff 36, 1989, S. 201-213.
- 11 Das Oberste Gericht und seine Repräsentanten. Autorenkollektiv unter Leitung von Günter Sarge, Oberstes Gericht der DDR—Rechtsprechung im Dienste des Volkes. Mit einem Dokumentenanhang, 1989, S. 15-48.
- 12 J. Arnold-Horst Luther, Zulässigkeit und sachliche Berechtigung eines Arrestbefehls. NJ 1990, S. 257.
- 13 Vergangenes und Zukünftiges im Strafvollzug der ehemaligen DDR—Ein Untersuchungsbericht. ZStrVo 1990, S. 327-329.
- 14 J. Arnold-Eckbert Klüsener-H. Luther, Fallsammlung für das Fachgebiet Strafrechtsverfahrensrecht, 1991
- 15 J. Arnold-Michael Friedrich, Sieger-Verlierer-Klischees. Über den Umgang mit DDR-Rechtsgeschichte. NKrimPol 3, 1991, H. 3, S. 20.
- 16 Reflexionen über die lebenslange Freiheitsstrafe in der ehemaligen DDR. Lebendig begraben—Lebenslange Freiheitsstrafe und Resozialisierung: Ein Dauerwiderspruch, 1991, S. 99-109.
- 17 Die Kassation in Strafsachen. H. Luther (Hrsg.), Grundzüge des Strafrechtsverfahrensrechts, 1991, S. 78-89.
- 18 J. Arnold-Martin Kühl, Forum: Probleme der Strafbarkeit von „Mauerschützen“. JuS 1992, S. 991-997.
- 19 Regierungskriminalität in der ehemaligen DDR. NJ 1992, S. 254-255.
- 20 J. Arnold-M. Kühl, Zur strafrechtlichen Beurteilung von Wahlfälschungen in der DDR. Zugleich Anmerkung zum Urteil des BG Dresden vom 7.2.1992. NJ 1992, S. 476-480.
- 21 Rehabilitierung und Kassation-Beseitigung von Justizunrecht in der DDR. Gedanken

- zu einer von der Deutschen Anwaltsakademie herausgegebenen gleichnamigen Schrift unter gleichzeitiger Berücksichtigung eines Entwurfes des Ersten SED-Unrechtsbereinigungsgesetzes. StV 1992, S. 92-94.
- 22 Die Kassation im Strafprozeßrecht Deutschlands. Die Zukunft des Straf- und Strafprozeßrechts in Deutschland. 15. Strafverteidigertag v. 26.-28. Apr. 1991, 1992, S. 137-165, auch in: Kriminalwissenschaftliche Perspektiven im Umbruch, 1992, S. 1-20.
 - 23 Rehabilitierung von Strafgefangenen in den neuen Bundesländern-Rückblick und Ausblick für den Verteidiger. AnwB 1993, S. 14-20.
 - 24 „Strafvollzug in der DDR“: Ein Gegenstand gegenwärtiger und zukünftiger Forschung. MSchrKrim 1993, S. 390-404.
 - 25 A. Eser-J. Arnold, Strafrechtsprobleme im geeinten Deutschland: Die deutsche Strafrechtswissenschaft vor neuen Herausforderungen. Einige Schwerpunkte gegenwärtiger und zukünftiger Forschung. Teil 1 u. 2. NJ 1993, S. 245-252, 289-295.
 - 26 Strafgesetzgebung und -rechtsprechung als Mittel der Politik in der ehemaligen DDR. E.-J. Lampe (Hrsg.), Deutsche Wiedervereinigung. Die Rechtseinheit. Arbeitskreis Strafrecht Bd. 2, 1993, S. 85-98.
 - 27 Landesbericht Deutsche Demokratische Republik. A. Eser-B. Huber (Hrsg.), Strafrechtsentwicklung in Europa 4. 1, 1993, S. 309-339.
 - 28 Landesbericht Deutsche Einheit: Strafrechtliche Übergangsprobleme. A. Eser - B. Huber, *ibid.*, S. 341-409.
 - 29 Deutsche Einheit und Strafrechtsreform. A. Eser-G. Kaiser-E. Weigend (Hrsg.), Von totalitärem zu rechtsstaatlichem Strafrecht. Internationales Symposium in Buchenbach bei Freiburg vom 27.-31. Mai 1992. 1993, S. 101-112.
 - 30 A. Eser-J. Arnold, Strafrechtsprobleme im geeinten Deutschland: Die Strafrechtswissenschaft vor neuen Herausforderungen-Einige Schwerpunkte gegenwärtiger und zukünftiger Forschung. A. Eser-G. Kaiser-E. Weigend (Hrsg.), *ibid.*, S. 603-678.
 - 31 „Normales“ Strafrecht der DDR? Krit.Vjschr.f.Gesetzgebung, 1994, S. 187-204.
 - 32 Die Berücksichtigung der systemimmanenten Auslegung des DDR-Rechts. Insbesondere erläutert am Beispiel der Rechtsprechung des LG Rostock und des BGH zum Vertrauensmißbrauch (§ 165 Abs. 1 StGB der DDR). wistra 1994, S. 323-327.
 - 33 „Normalität“ des Strafrechts in der DDR. W. Greive (Hrsg.), Die Rolle der Richter und Richterinnen zwischen Rechtsprechung und Politik. Loccumer Protokolle 14/94, 1995, S. 181-194.
 - 34 Die „Bewältigung“ der DDR-Vergangenheit vor der Schranke des rechtsstaatlichen Strafrechts. Institut für Kriminalwissenschaften Frankfurt a. M. (Hrsg.), Vom unmöglichen Zustand des Strafrechts, 1995, S. 283-312.
 - 35 „Unternehmens“ kriminalität und Strafrecht in der DDR. B. Schünemann (Hrsg.), Deutsche Wiedervereinigung. Die Rechtseinheit. Arbeitskreis Strafrecht. Bd. 3, 1995.

バートン (Stephan Barton)

1953年5月9日に、チューリンゲンのイエーナに生まれた。1981年に、ビーレフェルト大学のバックス教授に提出した論文 *Der psychowissenschaftliche Sachverständige im Strafverfahren*, 1983 で学位を取得した。その後、マイホーファー教授の助手を経験した後、ハンプルク大学第二法学部助手となり、1992年に、ゲーリング教授が受理した論文 *Mindeststandards der Strafverteidigung. Die strafprozessuale Fremdkontrolle der Verteidigung und weitere Aspekte der Gewährleistung von Verteidigungsqualität*, 1994 によって教授資格を取得した。1994年に、ビーレフェルト大学教授となった。

Geboren am 9. Mai 1953 in Jena/Thüringen. Dissertation 1981 bei O. Backes, Assistent in Bielefeld bei W. Maihofer. Hochschulassistent am FB RW II in Hamburg, Habilitation 1992 am FB RW II in Hamburg. Professor in Bielefeld seit 1994.

Aufsätze

- 1 Staatsanwaltschaftliche Entscheidungskriterien. Die Konstruktion von Realität durch Akten. MSchrKrim 1980, S. 206-216.
- 2 Schuldenregulierung für Straffällige und Kriminalpolitik. KrimJ 1982, S. 40-48.
- 3 Sachverständiger und Verteidiger. StrV 1983, S. 73-81.
- 4 Rechtsprechungsübersicht zu strafrechtlichen Problemen des Blutalkohols. StV 1983, S. 428-434.
- 5 Strafverteidigungs-Aktivitäten im Justizalltag. StV 1984, 394-401.
- 6 Forschendes Lernen in der strafrechtlich-kriminologischen Juristenausbildung. H. Ostendorf (Hrsg.), Integration von Strafrechts- und Sozialwissenschaften. Festschr. f. L. Pongratz, 1986, S. 137-147.
- 7 Strafverteidigungsorientierte Schwerpunktausbildung an der Universität Hamburg. AnwB 1987, S. 63-69.
- 8 Kriminaltechnik und Strafverteidigung. 10. Strafverteidigertag. 1987, S. 58-92.
- 9 Zur Effizienz der Strafverteidigung. MSchrKrim 1988, S. 93-105.
- 10 Strafverteidigung und Kriminaltechnik. StV 1988, S. 124-130.
- 11 Kriminologie für Strafverteidiger? StV 1988, S. 228-232.
- 12 Fachanwalt für Strafrecht. Zu den Anforderungen an die Verleihung einer Bezeichnung als Fachanwalt für Strafrecht. AnwB 1989, S. 472-474.
- 13 Zulässigkeit und Bedürftigkeit eines Spezialisierungshinweises „Strafverteidiger“. StV 1989, S. 452-454.
- 14 Ist unzureichende Strafverteidigung revisibel? 13. Strafverteidigertag. 1989, S. 187-201.
- 15 Das Vertragsprinzip-ein neues Strafverteidigungsparadigma? StV 1990, S. 237-240.
- 16 Kann und soll man Strafverteidigung lehren, lernen, prüfen? Erfahrungen aus der Reform der strafrechtlichen Schwerpunktausbildung. Heinz Giehring et al. (Hrsg.), Juristenausbildung-erneut überdacht, 1990, S. 277-293.

- 17 Schadensersatzpflicht des Verteidigers bei fehlerhafter Revisionsbegründung. StV 1991, S. 322-326.
- 18 Aktenführung, Aktenmanipulationen und die Berufung auf behördeninterne Vorgänge. H. Ostendorf (Hrsg.), Strafverfolgung und Strafverzicht. Festschr. z. 125jährigen Bestehen der Staatsanwaltschaft Schleswig-Holstein, 1992, S. 335-342.
- 19 Das Tatobjekt der Geldwäsche: Wann rührt ein Gegenstand aus einer der im Katalog des § 261 I Nr. 1-3 StGB bezeichneten Straftaten her? NSTz 1993, S. 159-165.
- 20 Sozial übliche Geschäftstätigkeit und Geldwäsche (§ 261 StGB). StV 1993, S. 156-163.
- 21 Der Zeitpunkt des Beweisantrages unter besonderer Berücksichtigung des Inerita-Effektes. Strafverteidiger-Forum 1993, S. 11-19.
- 22 Der Tatbestand der Abgeordnetenbestechung (§ 108eStGB). NJW 1994, S. 1098-1101.

バウルマン (Michael Baurmann)

1952年1月26日に生まれた。フランクフルト大学で社会学と哲学を学び、1979年に、法学部の助手となった。後、ウィースバーデンの連邦刑事警察庁の犯罪学研究所に所属する研究員として、同庁の研究双書等に論文を発表していたが、最近、マインツ大学で、教授資格を取得し、私講師となった。

Geboren am 26. Januar 1952. Studium der Soziologie und Philosophie in Frankfurt a. M. Seit 1979 wissenschaftlicher Mitarbeiter am Fachbereich Rechtswissenschaften daselbst. Dann wissenschaftlicher Oberrat, kriminalistisch-kriminologische Forschungsgruppe im Bundeskriminalamt Wiesbaden. Habilitation in Mainz, PD daselbst.

著書

Sexualität, Gewalt und die Folgen für das Opfer. Zusammengefasste Ergebnisse aus einer Längsschnittuntersuchung bei Opfern von angezeigten Sexualkontakten, 1982.

Sexualität, Gewalt und psychische Folgen. Eine Längsschnittuntersuchung bei Opfern sexueller Gewalt u. sexuellen Normverletzungen anhand von angezeigten Sexualkontakten, 1983.

Zweckrationalität und Strafrecht. Argumente für ein tatbezogenes Maßnahmerecht, 1987.

M. Baurmann-Wolfram Schädler (Hrsg.), Das Opfer nach der Straftat - seine Erwartungen und Perspektiven. Eine Befragung von Betroffenen zu Opferschutz und Opferunterstützung sowie ein Bericht über vergleichbare Untersuchungen, 1991.

Aufsätze

- 1 Farco Werkentin-Michael Hofferbert-M Baurmann, Kriminologie als Polizeiwissenschaft oder: wie alt ist die neue Kriminologie. Kritische Justiz. 1972, S. 221-251.
- 2 Grundlagen und Hypothesen zu einem Forschungsprojekt über Schäden an Personen, die als Sexualopfer bekannt wurden. Gerd F. Kirchhoff-Klaus Sessar (Hrsg.), Das Verbrechenopfer. 1979, S. 243-272.

- 3 Gewalt in der Familie. BewHi 1980, S. 347-358.
- 4 Schuldlose Dogmatik? Sozialwissenschaftlicher Kommentar. Klaus Lüderssen-Fritz Sack (Hrsg.), Kriminalpolitik und Strafrecht. 1980, S. 196-265.
- 5 Eine Längsschnittuntersuchung bei Opfern von sexueller Gewalt und sexuellen Normverletzungen. Krim 1981, S. 278-281.
- 6 Kriminalpolitik ohne Maß: Zum Marburger Programm Franz von Liszts. KrimSoz-Bibl. H. 42, 1984, S. 54-79.
- 7 Körpersprache und deliktische Situation. Dargestellt am Beispiel der Sexualopfer. Edwin Kube et al. (Hrsg.), Wissenschaftliche Kriminalistik. Grundlagen und Perspektiven. Teilband 2: Theorie, Lehre und Weiterbildung, 1984, S. 125-170.
- 8 Aktuelle Diskussionen und Forschungsergebnisse zu gewaltsam ausgetragenen Konflikte. Gewalt und Kriminalität. 1985, S. VII-XXXVIII.
- 9 M. Baumann-Hartmut Klient, Rechtspositivismus auf die leichte Schulter genommen? Kommentar zu Ronald Dwokins Buch "Bürgerrechte ernst genommen. öster. ZSchr. f. Soziologie 1985, S. 121-136.
- 10 Understanding as an Aim of Understanding. Comments on Jürgen Habermas. G. Seebaß—R. Tuomela (eds.), Social Action. 1985, S. 187-196.
- 11 Gewaltsam ausgetragene Konflikte, wie sie bei der Polizei bekannt werden. Gewalt und Kriminalität. Arbeitstagung des BKA. 1986, S. 131-144.
- 12 Männergewalt. Erscheinungsformen und Dimensionen von Gewalt gegen Frauen und Mädchen. Vorgänge 90, 1987, H. 6, S. 50-60.
- 13 Bürokratie im Rechtsstaat Oder warum der Bürger ein Freund der Bürokratie sein sollte. Verwaltungsführung, Organisation, Personal. 1990, 2, S. 84-94.
- 14 Sexualität, Gewalt und die Folgen für das Opfer. Ergebnisse einer Befragung von deklarierten Sexualopfern im Rahmen einer Längsschnittuntersuchung. Gewalt an Frau, 1990, S. 23-35.
- 15 Sexuelle Gewalttätigkeit in der Ehe. Ein Plädoyer für die strafrechtliche Behandlung von sexuellen Gewalthandlungen inner- und außerhalb der Ehe. Ebenda, S. 37-47.
- 16 M. Baumann-H. Klient, Die moderne Gesellschaft im Rechtsstaat. Eine Einführung in das Thema. M. Baumann-H. Klient (Hrsg.), Die moderne Gesellschaft im Rechtsstaat. 1990, S. 11-36.
- 17 Strafe im Rechtsstaat. Ebenda, S. 109-159.
- 18 Grundzüge der Rechtssoziologie Max Webers. JuS 1991, S. 97-103.
- 19 M. Baumann-Dieter Hermann-Hans Udo Störzer-Franz Streng, Telefonische Befragung von Kriminalitätsoptionen: Ein neuer Weg ins Dunkelfeld? MSchrKrim 1991, S. 159-173.
- 20 Recht und Moral bei Max Weber. Heike Jung-Heinz Müller-Dietz (Hrsg.), Recht und Moral. 1991, S. 113-138.

- 21 Über die Bedürfnisse von Kriminalitätsoptionen. Rudolf Egg (Hrsg.), Brennpunkt der Rechtspsychologie. 1991, S. 11-38.
- 22 Kriminalistisch-kriminologische Fallanalyse. Vorläufige Konzeption nach ersten praktischen Erfahrungen. Polizei bezogene kriminologische Forschung im zusammenwachsenden Europa. 1993, S. 77-82.
- 23 Vorüberlegungen zu einer empirischen Theorie der positiven Generalprävention. GA 1994, S. 368-384.

ベルスマン (Klaus Bernsmann)

1947年10月19日, ノルトライン・ウェストファーレンのウィッテンに生まれた。ポッフム大学のガイレン教授の下で助手を務め, その指導で学位を取得した。論文は, Probleme des strafrechtlichen Krankheitsbegriffs—Untersuchungen zu einem interdisziplinären Spannungsfeld, 1978 である。その教授資格請求論文は, „Entschuldigung“ durch Notstand-Studien zu § 35 StGB, 1989 であり, 1987年夏学期に, 同大学私講師となった。ケルン大学教授として講義を担当していたが, 引退したヒルシュ教授の後任となった。

Geboren am 19. Oktober 1947 in Witten/Nordrhein-Westfalen. Promotion 1978 in Bochum, Habilitation 1987 in Bochum, beide bei G. Geilen Privatdozent in Bochum 1987, dann Professor in Köln, 1995 Nachfolger v. H. J. Hirsch.

Aufsätze

- 1 K. Bernsmann-K.P. Kisker, § 20 StGB und die Entschuldbarkeit von Delinquenz diesseits biologisch-psycho (patho) logischer Exkulpationsmerkmale. MSchrKrim 1975, S. 325-339.
- 2 K. Bernsmann-Mark Richartz-Wolfgang Schulz, Soziale Psychiatrie und Strafvollzug zur Frage der Relevanz psychiatrischer Erfahrungen für eine Reform des Strafvollzugs. MSchrKrim 1977, S. 159-176.
- 3 Zur Problematik der Mißverhältnisklausel beim Sachwucher—eine Untersuchung zu einem „dogmatischen Dunkelfeld“. GA 1981, S. 141-168.
- 4 Tatbestandsprobleme des Hausfriedensbruchs. Jura 1981, S. 337-346, 403-416, 465-472.
- 5 Das psychiatrische Krankenhaus zwischen Aufnahmepflicht und Verantwortung aus strafrechtlicher Sicht. Psychiatrische Praxis 1981, S. 9 ff.
- 6 Zum Verhältnis von Wissenschaftstheorie und Recht—Überlegungen zur sog. „Psychischen Kausalität“ im Strafrecht. ARSP Bd. 68, 1982, S. 536-555.
- 7 Tötungs-und Körperverletzungsdelikte, Rechtfertigungsgründe. Jura 1982, S. 261-272.
- 8 Zur strafrechtlichen Beurteilung der eigenmächtigen „In-Pfand-Nahme“. NJW 1982, S. 2214-2218.
- 9 Grundrechtswahrung in staatlichen Verwahrungsverhältnissen. K. Dörner (Hrsg.), Edelpsychiatrie oder Arme-Leute-Psychiatrie, 1982, S. 74 ff.

- 10 Zur Konkurrenz von „privilegierten“ (§ 213, 216, 217) und „qualifizierten“ (§ 211) Tötungsdelikten. JZ 1983, S. 45-53.
- 11 Maßregelvollzug und Grundgesetz. Einige kritische Anmerkungen zum Verhältnis von Verfassung und strafrechtlicher Unterbringung in einem psychiatrischen Krankenhaus. G. Blau-H. Kammeier, Straftäter in der Psychiatrie. Situation und Tendenzen des Maßregelvollzugs. 1984, S. 142-161.
- 12 Zum Handeln von Hoheitsträgern aus der Sicht des „entschuldigenden“ Notstandes (§ 35 StGB). FSchr. f. G. Blau, 1985, S. 23-49.
- 13 Kronzeugenregelungen des geltenden Rechts. Dogmatische Anmerkung zu einer (kriminal-) politischen Auseinandersetzung. JZ 1988, S. 539-545.
- 14 Zum Zusammenspiel von strafrechtlicher Regelung und „flankierenden Gesetzen“ beim Schwangerschaftsabbruch. Arbeit und Recht. 1989, S. 10-16.
- 15 Affekt und Opferverhalten. NSTz 1989, S. 160-166.
- 16 Karl Heinz Kunert-K. Bernsmann, Neue Sicherheitsgesetze-mehr Rechtssicherheit? Zu dem Gesetz zur Klärung des Strafgesetzbuches, der Strafprozeßordnung und des Versammlungsgesetzes. NSTz 1989, S. 449-461.
- 17 Der Verzicht auf Feststellungen bei § 142 StGB. NZV 1989, S. 49-58.
- 18 Der gefährliche Kranke. JA-Lernbogen 1991, S. 126-130.
- 19 Der mehrfach mißglückte Kunsttransfer. Jura 1992, S. 491-496.
- 20 Zum rechtlichen Umgang mit psychisch kranken Jugendlichen. BJM (Hrsg.), Grundfragen des Jugendkriminalrechts, 1992, S. 205-215.
- 21 Überlegungen zur tödlichen Notwehr bei nicht lebensbedrohlichen Angriffen. ZStrW 1992, S. 290-327.
- 22 K. Bernsmann-B. Schlink, Was tun? Zur Fortsetzung der Reform nach der zweiten Entscheidung des BVerfG zum Schwangerschaftsabbruch. KritV Sonderheft 1/1993, S. 180 ff.
- 23 Forum: Schwangerschaftsabbruch zwischen „Töten“ und „Sterbenlassen“. Überlegungen zum „Geiger-Fall“ JuS 1994, S. 9-14.
- 24 Wider eine Vereinfachung der Hauptverhandlung. ZRP 1994, S. 329-333.
- 25 K. Bernsmann-Frank Zieschang, Zur strafrechtlichen Haftung des Verursachers einer Gefahrenlage für Schäden eines Retters-BGHSt 39, 322. JuS 1995, S. 775-779.

ボック (Michael Bock)

1950年5月28日、カルヴ郊外のアルトブルクに生まれた。ギムナジウム卒業後、1969年から70年まで、ハイルブロン郊外の知的障害者施設で、実習の後、1970年から75年までテュービンゲン大学神学部へブライ語科で勉強すると共に、1971年から78年まで、テュービンゲン大学とフランクフルト大学で社会学を学び、1978年にテュービンゲン大学のフリードリッヒ・H・テンクバハ教授に提出した論文 *Soziologie als Grundlage des Wirklich-*

keitsverständnisses. Zur Entstehung des modernen Weltbildes. 1980 により社会学博士の学位を取得し、1978年から85年まで、テンブルック教授の研究室の助手となった。また、1979年から91年まで、ゲッピンガー教授の犯罪学研究所の助手を務め、1983年には論文 *Kriminologie als Wirklichkeitswissenschaft*, 1984 で法律学の学位を取得、次いで、1985年には、テンブルック教授に提出した論文 *Recht ohne Maß. Die Bedeutung der Verrechtlichung für Person und Gemeinschaft*. 1988 で教授資格を獲得し、1985年に、メルゲン教授の後任として、マインツ大学教授、1995年に、ベーム教授の後任として、同大学の正教授となった。

Geboren am 28. Mai 1950 in Altburg/Calw. Juni 1969 Abitur; 1970-1975 Studium der ev. Theologie in Tübingen; 1971-78 Studium der Soziologie in Tübingen und Frankfurt; September 1978 Promotion zum Doktor der Sozialwissenschaften bei Friedrich H. Tenbruck; 1978-85 Assistent am Soziologischen Seminar bei Tenbruck; 1979-81 Assistent am Institut für Kriminologie von Hans Göppinger; Februar 1983 Promotion zum Dr. iur in Tübingen; 1985 Habilitation für Soziologie in Tübingen; seit 1985 Professor (C 3) für Kriminologie und Strafrecht als Nachfolger von Mergen; August 1985 Professor (C 4) für Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzugsrecht und Strafrecht als Nachfolger von Alexander Böhm.

著書・編著

Hans Göppinger, *Der Täter in seinen sozialen Bezügen. Ergebnisse aus der Tübinger Jungtäter-Vergleichsuntersuchung*. Unter Mitarbeit von Michael Bock, Jörg-Martin Jehle und Werner Maschke, 1983.

Hans Göppinger, *Life Style and Criminality. Basic Research and its Application*, with collab. of M. Bock, J.-M. Jehle, W. Maschke, 1987.

M. Bock-H. Homann-P. Schiera, *Gustav Schmoller heute: Die Entwicklung der Sozialwissenschaften in Deutschland und Italien*, 1990.

Kriminologie, 1995.

H Göppinger-A. Böhm-M. Bock, *Kriminologie*. 5. Aufl., 1996 (in Vorbereitung).

Aufsätze

- 1 Naturrecht und Positivismus im Strafrecht zur Zeit des Nationalsozialismus. *ZSchrNeuere RGesch* 1984, 3/4, S. 147-159
- 2 Kriminologie als selbständige Erfahrungswissenschaft. Eine Auseinandersetzung mit Nomologismus und Subjektivismus in der sozialwissenschaftlichen Methodologie. *Forensia* Bd. 4, 1984, S. 147-159.
- 3 Staatsbildung und Geschichtsschreibung im alten Israel. Ein Beitrag zur Kultursoziologie. H. Braun-A. Hahn (Hrsg.), *Kultur im Zeitalter der Sozialwissenschaften*. Friedrich H. Tenbruck zum 65. Geburtstag, 1984, S. 19-42.
- 4 Kriminalität: Zeitgenössische Befunde und Bewertungen. *Soziologische Revue* 1986, S. 38-47.
- 5 Recht und Gesellschaft unter den Bedingungen der Verrechtlichung. *MSchrKrim Jg.*

- 69, 1986, S. 289-295.
- 6 Angewandte Kriminologie: Ihre praktische und wissenschaftliche Bedeutung. *Forensia* Bd. 9, 1988, 4, 189-204.
 - 7 Im Patt der alten Positionen. Zur Kontinuität ungelöster Streitfragen in der Kriminologischen Literatur. *Soziologische Revue* 1988, S. 29-37.
 - 8 Vorüberlegungen zur rechtspolitischen Bewältigung der Risikogesellschaft. *ZSchr. f. Rechtssoziologie* 1989, S. 255-264, auch in: Tilmann Ever (Hrsg.), *Organisierte Unverantwortlichkeit. Zur Rechts- und Institutionenkritik der Risikogesellschaft*, 1991, S. 41-60.
 - 9 Kriminologie und Spezialprävention. *ZStrW* 1990, S. 504-533.
 - 10 Lebensführung und Straffälligkeit. H.-J. Kerner-G. Kaiser (Hrsg.), *Kriminalität: Persönlichkeit, Lebensgeschichte und Verhalten*. Festschr. f. Hans Göppinger, 1990, S. 15-26.
 - 11 Verselbständigung von Methodenfragen, Ausklammerung von Sachfragen. Über Veränderungen im Verhältnis von Wissenschaft und Politik seit den Tagen Gustav Schmollers. M. Bock-H. Homann-P. Schiera (Hrsg.), *Gustav Schmoller heute*. Op. cit., S. 293-332.
 - 12 Zur dogmatischen Bedeutung unterschiedlicher Arten empirischen Wissens bei prognostischen Entscheidungen im Strafrecht. *NStZ* 1990, S. 457-463, auch in: W. Frisch-Th Vogt (Hrsg.), *Prognoseentscheidungen in der strafrechtlichen Praxis*, 1994, S. 143-161.
 - 13 Neues von der Kulturosoziologie des Rechts? Kritische Anmerkungen zu Werner Geiparts "Kulturelle Aspekte des Rechts- Vom Klassen- zum Kulturparadigme? *ZSchr. f. Rechtssoziologie* 1991, S. 147-151.
 - 14 Gegenwärtiger Stand der kriminologischen Prognoseforschung. Christian Frank u. Gerhart Harrer (Hrsg.), *Kriminalprognose. Alkoholbeeinträchtigung. Rechtsfragen u. Begutachtungprobleme*. *Forensia-Jahrbuch* Bd. 3, 1992, S. 29-42.
 - 15 Gustav Schmoller. Ein Sozialwissenschaftler für unsere Zeit? *Geschichte und Gegenwart* 1992, S. 3-16.
 - 16 Ideen und Schimären im Strafrecht. Rechtssoziologische Anmerkungen zur Dogmatik der positiven Generalprävention. *ZStrW* 1993, S. 638-656.
 - 17 Prävention und Empirie. Über das Verhältnis von Strafzwecken und Erfahrungswissen. *JuS* 1994, S. 89-99.
 - 18 Addition, Theorie, Typus. Möglichkeiten und Grenzen kriminologischer Integrationsbemühungen. *MSchrKrim* 77. Jg., 1994, S. 238-251.
 - 19 Die Entwicklung der Soziologie und die Krise der Geisteswissenschaften in den 20er Jahren. K.W. Nörr-B. Schefold—F.H. Tenbruck (Hrsg.), *Geisteswissenschaften zwischen Kaiserreich und Republik. Zur Entwicklung von Nationalökonomie, Rechtswissenschaft und Sozialwissenschaft im 20. Jahrhundert*, 1994, S. 159-185.
 - 20 Die evangelische Friedensethik und die Lehre vom „bellum justum“. H. Assel u.a. (Hrsg.), *Zeitworte—Der Auftrag der Kirche im Gespräch mit der Schrift*. Friedrich Milden-

- berger zum 65. Geburtstag, 1994, S. 121-130.
- 21 Kriminalität der Mächtigen. Kritische Anfragen an ein in die Jahre gekommenes Konzept und Seitenblicke auf jüngere Verwandte. G. Kaiser-J.-M. Jehle (Hrsg.), Kriminologische Opferforschung. Neue Perspektiven und Erkenntnisse. Neue Kriminologische Schriftenreihe Bd. 102/1, 1994, S. 171-186.
 - 22 Das Ganzheitsideal der Historischen Schule und die Verselbständigung der Soziologie. O. Saame (Hrsg.), Einheit der Wissenschaft?, 1995,
 - 23 Die Methode der idealtypisch-vergleichenden Einzelfallanalyse. D. Dölling (Hrsg.), Die Täter-Individualprognose-Stand, Probleme und Perspektiven der kriminologischen Prognoseforschung. Vorträge beim Symposium zu Ehren von H. Leferenz im Oktober 1993 in Heidelberg, 1995, S. 1-28.
 - 24 Die Vorgeschichte der „kritischen Theorie“ in der Weimarer Republik. F.H. Tenbrück (Hrsg.), Die zweite Gründung der Bundesrepublik. Zur Wirkungsgeschichte der Frankfurter Schule, 1995.
 - 25 Methamorphosen der ‚Vergangenheitsbewältigung‘. Posotopnen, Phasen und Genertionen. Ibid.
 - 26 Verrechtlichung der Gesellschaft als Grundbedingung moderner Medizin. Geschichte und Gegenwart 1995.

ベリンガー (Lorenz Böllinger)

1944年7月13日、ネッカー河畔のバート・フリードリッヒスハルに生まれた。1964年から70年まで、フランクフルト大学とフランスのグルノーブル大学で法学を学び、70年に第1次国家試験に合格し、73年まで、フランクフルトで司法修習に従事し、同大学で副手を努め、73年に、第2次国家試験に合格した。1973年から81年まで、フランクフルトで弁護士をしながら、イエーガー教授の助手を務め、心理学の勉強も行った。1978年には、学位を取得した。その論文は、Psychoanalyse und die Behandlung von Delinquenten, 1979である。その後、ハンプルク大学第2法学部ほかで研究と教育に従事し、1982年にブレーメン大学の犯罪学と刑法の教授(C3)となった。

Geboren am 13. Juli 1944 in Bad Friedrichshall/Neckar. 1964-1970 Jura-Studium in Frankfurt und Grenoble. 1970 1. Juristische Staatsexamen, 1970-73 Referendar in Frankfurt; 1973 2. Juristische Staatsexamen; 1973-81 Rechtsanwalt in Frankfurt; 1973-78 Assistent bei H. Jäger; 1978 Promotion, 1979-82 Professor in FH Dortmund u. Frankfurt; seit 1982 Professor (C3) am FB RW Bremen.

著書・編著

- L. Böllinger-E. Osborg, Psychoanalytische Gruppendynamik im Jurastudium, 1977.
- L. Böllinger, Drogenrecht, Drogentherapie. Ein Leitfadens für Drogenberater, Drogenbenutzer und Juristen. 2. Aufl., 1987.
- L. Böllinger-Helmo Stöver, Drogenpraxis, Drogenrecht, Drogenpolitik. 3. Aufl., 1992;

4. Aufl., 1995.

De-Americanizing Drug Policy. The Search for Alternatives for failed Repression, 1994.

Aufsätze

- 1 Die strafrechtliche Relevanz der Psychoanalyse. Möglichkeiten und Grenzen der Einbeziehung von Humanwissenschaft in der Rechtspraxis. Peter Eschweiler (Hrsg.), Psychoanalyse und Strafrechtspraxis, 1979, S. 89-112.
- 2 Behandlungsvollzug in der Nachuntersuchung: Das Yourth Center Research Project in Stockton/California. MSchrKrim 1980, S. 32-47.
- 3 Das jugendrechtliche Sanktionen- und Behandlungssystem im State Californien der USA. ZStrVo 1980, S. 106-114.
- 4 Prognoseprobleme bei der Strafaussetzung zur Bewährung. K. Lüderssen - F. Sack (Hrsg.), Vom Nutzen und Nachteil der Sozialwissenschaften für das Strafrecht. 1980, S. 283-306. ⇒ W. Frisch-Thomas Vogt (Hrsg.), Prognoseentscheidungen in der strafrechtlichen Praxis, 1994, S. 191-210.
- 5 Sozialwissenschaften im Strafrecht: Resignation und Abstinenz. KrimJ, 1981, S. 171-177.
- 6 Die Entwicklung zu terroristischem Handeln als psychosozialer Prozeß. BMI (Hrsg.), Analysen zum Terrorismus Bd. 2, Lebenslaufanalyse. 1981, S. 175-231.
- 7 H. Jäger - L. Böllinger, Thesen zur weiteren Diskussion des Terrorismus, ebenda, S. 232-236.
- 8 Unheils-Ideologie. Bemerkungen zu einer Soziologie des Strafvollzugs. KritJ, 1982, S. 88-94.
- 9 Limits to Pain. Eine psychosoziale Perspektive. KrimJ 1983, S. 54-57.
- 10 Die psychoanalytische Rekonstruktion der terroristischen Karriere. KrimJ 1983, S. 141-145.
- 11 Lebenslaufanalysen von Terroristen-Möglichkeiten und Grenzen qualitativer Sozialforschung. H. Kury et al. (Hrsg.), Deutsche Forschungen zur Kriminalitätsentstehung und Kriminalitätskontrolle. TBd. 1, 1983, S. 681-706.
- 12 Psychoanalytisch orientierte Sozialtherapie Friedrich Lösel (Hrsg.), Kriminalpsychologie. Grundlagen und Anwendungsbereiche, 1983, S. 239-247.
- 13 Psychoanalyse und Strafrecht Willi Seitz (Hrsg.), Kriminal- und Rechtspsychologie Ein Handbuch in Schlüsselbegriffen, 1983, S. 152-158
- 14 AIDS—und kein Ende. KrimJ 1985, S. 241-245.
- 15 Sexualstrafrecht und Herrschaft. Überlegungen zum „Kindersex-Skandal“ der GRÜNEN/Nordrhein-Westfalen. KritJ 1986, S. 90-101.
- 16 Sexualstrafrecht—„Kolonialisierung von Lebenswelt“? H. Ostendorf (Hrsg.), Integration von Strafrechts und Sozialwissenschaften. Festschr. f. Lieselotte Pongratz, 1986, S. 3-17.

- 17 Aids und Recht. S.R. Dunde (Hrsg.), Aids-Was eine Krankheit verändert. Sexualität und Moral, der Einzelne und die Gesellschaft, 1986, S. 162-173.
- 18 Generalprävention als Sozialisationsfaktor? Zur Kritik der Dogmatisierung sozialwissenschaftlicher Begriffe. KrimJ, 1987, S. 32-47.
- 19 Die Strafbarkeit der Homosexualität-eine Überprüfung aus kriminologischer Sicht. H. Jäger-E. Schorsch (Hrsg.), Sexualwissenschaft und Strafrecht. 1987, S. 10-33.
- 20 Forensische Psychiatrie und Öffentlichkeit-Bedingungen gesellschaftlicher Toleranz gegenüber psychisch gestörten Delinquenten. H. Kammeier-V. Schumann (Hrsg.), Wiedereingliederung psychisch kranker Rechtsbrecher, 1987, S. 5-19.
- 21 Zur Notwendigkeit der Behandlung von inhaftierten Straftätern in qualitativ hochwertigen Fachanstalten. MfJ, BW (Hrsg.), Sozialtherapie und Drogentherapie, 1987, S. 43-55.
- 22 Sexualität und Politik. KritJ 1988, S. 51-62.
- 23 Schuld und Sühne im Zeitalter "befreiter" Sexualität: der Fall AIDS. PSYCHE Bd. 42, 1988, S. 637-644.
- 24 AIDS-Kriminalpolitik. Bausteine einer Postmodernisierung des sozialen und demokratischen Rechtsstaates Demokratie und Recht. 1989, S. 150-164.
- 25 Zur Strafbarkeit des niedergelassenen Arztes nach §§ 223, 230 StGB wegen ambulanter Substitutionsbehandlung Drogenabhängiger. JA 1989, S. 403-413.
- 26 Ambulante Substitutionsbehandlung Heroinabhängiger durch den niedergelassenen Arzt: Macht er sich strafbar? Medizin und Recht, 1989, S. 290-301.
- 27 Strafvollzugsrechtliche Aspekte von HIV-Infektion und AIDS. C. Prittwitz (Hrsg.), Aids, Recht und Gesundheitspolitik. Ergebnisse sozialwissenschaftlicher Aids-Forschung. Bd. 2, 1990, S. 151-170.
- 28 Gesundheitsvorsorge für Heroinabhängige strafbar? Systemwidersprüche und verfassungskonforme Auslegung. JA 1991, S. 292-302.
- 29 Betäubungsmittelstrafrecht, Drogenpolitik und Verfassung. KritJ 1991, S. 393-408.
- 30 Opiatabhängigkeit, AIDS, Strafrecht: Kann Methadon helfen? A. Keil et al. (Hg.), Gesundheitswissenschaften und Gesundheitsförderung, 1991, S. 169-184.
- 31 Akzeptierende Drogenarbeit, Drogenstrafrecht und Verfassung. Akzept e.V. (Hrsg.), Leben mit Drogen. Akzeptierende Drogenarbeit als Schadensbegrenzung gegen repressive Drogenpolitik, 1991, S. 102-129.
- 32 Drogenrepression als Drogenpolitik - Der "Nationale Rauschgiftbekämpfungsplan". Deutsche Hauptstelle gegen die Suchtgefahren (Hrsg.), Drogenpolitik und Drogenhilfe, 1991, S. 59-69.
- 33 Betäubungsmittelstrafrecht, Drogenpolitik und Verfassung. Wissenschaftliche Einheit Kriminalpolitikforschung (Hrsg.), Legalisierung von Heroin—die neue Debatte. Internationales Symposium an der Universität Bremen. Bremen am 3. Mai 1991, 1992, S. 47-62.
- 34 Verfassungsrechtliche und kriminalpolitische Aspekte eines Ausstiegs aus der repre-

ssiven Drogenpolitik, 1992, S. 147-167.

- 35 Psychoanalyse und Recht. Anwendungen-Zusammenhänge-Widersprüche. Bremer Arbeitsgruppe f. Psychoanalyse und Psychotherapie (Hrsg.), Psychoanalyse-Eine Kunst des Machbaren, 1992, S. 94-108.
- 36 Schuldfeststellung im Strafverfahren als psychosoziale (Re-) Konstruktion. Ein Beitrag zur interdisziplinären Verständigung. MSchrKrim 1993, S. 3-16.
- 37 Soziale Disziplinierung und Moralstrafrecht-Zur Instrumentalisierung von Schuldgefühlen für Machtinteressen. Jb. f. Rechtssoziologie u. Rechtstheorie. Strafrecht, soziale Kontrolle, soziale Disziplinierung, 1993, S. 271-280.
- 38 Die Unterbringung gem. §§ 63, 64 StGB bei Drogenabhängigen-Eine Kritik strafrechtlicher Intervention. Jost Karger (Hrsg.), Information der Deutschen Gesellschaft f. Rechtsmedizin. Bd. 5, Heft 42, 1993, S. 190-203.
- 39 Sozialpsychologische Überlegungen zur Wirksamkeit des Drogenverbots. Akzept e. V. (Hrsg.), Menschenwürde in der Drogenpolitik-Ohne Legalisierung geht es nicht!, 1993, S. 88-106.
- 40 Die Amoral der Ekstase L. Böllinger et al. (Hrsg.), Vom Guten, das noch stets Böse schafft. Kriminalwissenschaftliche Essays zu Ehren von Herbert Jäger, 1993, S. 161-183.
- 41 Grenzenloses symbolisches Strafrecht. KritJ 1994, S. 405-420.
- 42 Psychosoziale Aspekte der Kontrolle von Sexualtätern. Wiss. Einheit Kriminalpolitikforschung (Hrsg.), Zur Reform des Sexualstrafrechts, 1994, S. 405-420
- 43 Externe Sexualtherapie mit Maßregelvollzugspatienten. ZSchr. Sexualforschung 1995, S. 199-221.
- 44 Rationale und irrationale Momente bei der Anwendung des (Jugend) Strafrechts-eine sozialpsychologische/psychoanalytische Perspektive zur Beurteilung justizieller Vorverständnisse und Einstellungen. BMJ (Hrsg.), Das Jugendkriminalrecht als Erfüllungshilfe gesellschaftlicher Erwartungen. 3. Kölner Sysposium 1995, S. 84-98.
- 45 Der drogenabhängige Patient-Juristische Dimensionen. Jörg Götz (Hrsg.), Der drogenabhängige Patient, 1995, S. 39-62
- 46 Resozialisierung und Drogengebrauch. Heinz Cornel (Hrsg.), Handbuch der Resozialisierung, 1995, S. 175-194.
- 47 Externe Psychotherapie mit Sexualstraftätern im Maßregelvollzug-ein persönliches, institutionelles und methodologisches Konfliktfeld MSchrKrim 1996, S. 67-89.
- 48 Psychoanalyse im Kontext-soziologische Erkundungen. PSYCHE 50, 1996, S. 85-90.
- 49 Postmoderne Kriminalpolitik Recht und Psychiatrie 1996, H 2, 1996.

ブラウンス (Uwe Brauns)

1946年3月1日、ハンブルクに生まれた。1966年にギムナジウムを卒業後、1966年冬学期から1973年夏学期まで、ケルン大学とベルリン自由大学で法律学を学び、73年9月に、

第1次国家試験に合格し、ケルン大学のコールマン教授の研究室の副手となり、1976年から78年まで、司法修習生を兼ねた。1978年に第2次国家試験に合格し、79年から87年まで、コールマン教授の研究室の助手を務めた。その間、1983年に、*Die Besetzungsrüge und ihre Präklusion im Strafprozeß*. 1983 という論文で学位を取得した。さらに、教授資格請求論文の執筆を続けていたが、1993年冬学期にコールマン教授の下で研鑽を積んだ論文 *Die Wiedergutmachung der Folgen der Straftat durch den Täter-Ein Beitrag zur Neubewertung eines Strafzumessungsfaktors de lege lata und de lege ferenda*, 1995 が受理され、94年夏学期に、私講師となった。その後、ポッフム大学、ケルン大学で教鞭を執っている。

Geboren am 1. März 1946 in Hamburg. 1966 Abitur; WS 1966/67 bis SS 1973 Studium der Rechtswissenschaften in Köln und FU Berlin; September 1973 1. juristische Staatsprüfung; 1973-1978 wissenschaftliche Hilfskraft bei Kohlmann; 1976-78 Referendar; 1979-87 wissenschaftlicher Assistent bei Kohlmann; 1983 Promotion; WS 1993/94 Habilitation; SS 1994 Privatdozent Köln.

共著

G. Kohlmann - U. Brauns, Zur strafrechtlichen Erfassung der Fehlleitung öffentlicher Mittel. Gutachten, erstattet für den Bund der Steuerzahler, 1979

Aufsätze

- 1 G. Kohlmann - U. Brauns, „Neuabschluss“ von „Altverträgen“ zwecks Inanspruchnahme von Investitionszulagen nach § 4b InvZulG-Betrug? Finanz-Rundschau 1979, S. 279-282.
- 2 G. Kohlmann-U. Brauns, Nochmals: Betrug durch Inanspruchnahmen von Investitionszulagen Ibid, S. 479-480.
- 3 G. Kohlmann-U. Brauns, Investitionszulage 1982-wiederum kriminogen? wistra 1982, S. 61-63.
- 4 Literatur zur Parteienfinanzierung. wistra, 1983, S. 248-249.
- 5 Die Auslegung des § 371 AO im Spannungsfeld strafrechtlicher und steuerpolitischer Zielsetzungen. Grundsätze für den Ausgleich eines Zielkonfliktes. wistra, 1985, S. 171-179.
- 6 Materiell-strafrechtliche Wertaspekte der Selbstanzeige (§ 371 AO). Der Nutzen der Rücktrittslehren für eine „erweiterte Abwägung“. wistra 1987, S. 233-242.
- 7 Formelpatriotismus hilft den Deutschen nicht. Sonde 1988, S. 3-6.
- 8 Die gescheiterte Wiederaufnahme des Strafverfahrens gegen Carl v. Ossietzky-Grund für eine Gesetzesänderung? JZ 1995, S. 492-499.

ダンネッカー (Gerhard Dannecker)

1952年8月29日、ベプリングェンのダーガースハイムに生まれた。1972年冬学期に、フライブルク大学に入学し、法学を学び、74年冬学期に、ゲッティンゲン大学に転じ、77年に、第1次国家試験に合格した。1978年に、フライブルク大学のディークマン教授、次いで、

ティーデマン教授の副手を務め、併せて、フライブルクで司法修習を行った。81年に、第2次国家試験に合格した。その後、1991年3月まで、助手を務めた。

その間、1983年に、学位を取得した。論文は、*Steuerhinterziehung im internationalen Wirtschaftsverkehr*, 1984. である。1991年には、*Das intertemporale Strafrecht*, 1993 で教授資格を得、1992年に、バイロイト大学教授への招聘を受け、5月に就任した。

Geboren am 29. August 1952 in Dagersheim/Böblingen. Jura-Studium WS 1972-WS 74 in Freiburg u. Göttingen; 1977 I. Staatsexamen; 1978-1981 wissenschaftl. Hilfskraft bei Dieckmann u. Tiedemann, Freiburg; gleichzeitig Referendardienst in Freiburg; 1981 2 Juristische Staatsprüfung; Promotion 1983 bei Tiedemann; 1987 Assistent bei Tiedemann; WS 1991 Habilitation bei Tiedemann; WS 1991 PD Freiburg; 1992 Professor Bayreuth.

著書・編著

K. Tiedemann-G. Dannecker, *Die gesetzliche Milderung im Steuerstrafrecht dargestellt am Beispiel der Abzugsfähigkeit von Parteispenden*, 1985.

G. Dannecker-Jutta Fischer-Fritsch, *Das EG-Kartellrecht in der Bußgeldspraxis*, 1989.

W. Kreckner-K. Tiedemann-K. Ulsenheimer-G. Weinsmann-D. Dannecker, *Handwörterbuch des Wirtschafts- und Steuerrechts*, 1988 ⇒

G. Dannecker (Hrsg.), *Die Bekämpfung des Subventionsbetrugs im EV-Bereich*, 1993.

G. Dannecker, (Hrsg.), *Lebensmittelstrafrecht und Verwaltungssanktionen in der Europäischen Union*, 1994.

Aufsätze

- 1 K. Tiedemann-G. Dannecker, *Das gestohlene Altgold*. Jura 1984, S. 655-661.
- 2 *Internationale Steuerflucht und Genese der Normen zur Bekämpfung von Basisgesellschaften* H.-J. Albrecht-U. Sieber, *Zwanzig Jahre südwestdeutsche Kriminologische Kolloquien*, 1984, S. 81-108.
- 3 *Die Verfolgungsverjährung bei Submissionsabsprachen und Aufsichtspflichtverletzungen in Betrieben und Unternehmen. Zugleich eine Anmerkung zu BGH, NJW 1984, 2372* NStZ 1985, 77. NStZ 1985, S. 49-56.
- 4 *Strafbarkeit und Strafverfolgung in Fragen der Parteienfinanzierung* H. O. Mühleisen (Hrsg.), *Das Geld der Parteien. Parteienfinanzierung zwischen staatspolitischer Notwendigkeit und Kriminalität*. 1986, S. 55-79.
- 5 *Die Neuregelung der Abzugsfähigkeit von Parteispenden als gesetzliche Milderung im Steuerstrafrecht. Parteispendenproblematik*, 1986, S. 91-118.
- 6 *Der Schutz von Geschäfts- und Betriebsgeheimnissen. Zur Situation nach der Neuregelung durch das Zweite Gesetz zur Bekämpfung der Wirtschaftskriminalität*. BB 1987, S. 1614-1622.
- 7 *La responsabilité pénale pour les délits d'omission en droit allemand, notamment dans le domaine de l'économie et d'environnement*. RevScieCrim. 1987, 379-395.
- 8 *Eine folgenschwere Gasexplosion*. Jura 1988, S. 657-663.

- 9 Die Rache der vernachlässigten Ehefrau. JuS 1988, L 67-71.
- 10 Scharlach im Kindergarten. JuS 1989, S. 215-218.
- 11 Misure legislative per la lotta alla criminalità economica nella Repubblica Federale Tedesca. Rivista Trimistrale di Diritto Penale dell'Economia 1989, S. 636-672.
- 12 Der Schutz der Beteiligten beim internationalen Auskunftsverkehr in Steuersachen. Steuerliche Vierteljahresschrift 1990, S. 124-145.
- 13 D. Dannecker-Ivo Appel, Auswirkungen der Vollendung des Europäischen Binnenmarktes auf den Schutz der Gesundheit und der Umwelt. Nationale Schutzinteressen als Grenzen der Rechtsangleichung im Argar-, Lebensmittel-und Umweltrecht. ZSchr. f. vergl. Rechtswiss. 1990, S. 127-165.
- 14 La recente giurisprudenza del Bundesgerichtshof sul significato dei principi „nullum crimen sine lege“ e „ne bis in idem“ per il diritto penale e penale amministrativo dell'economia. Rivista Trimestrale di Diritto Penale dell'Economia 1990, S. 434-448.
- 15 Die Verhängung von Geldbußen gegen Unternehmen als Mittel zur Durchsetzung des Europäischen Wettbewerbsrechts. MSchrKrim. 1991, S. 268-289.
- 16 Neue Auffälligkeiten für Kriminalität infolge der finanziellen und wirtschaftlichen Integration der Europäischen Gemeinschaft. Evang. Akademie Bad Boll (hrsg.), Justiz und Polizei im Europa ohne Grenzen. Bedrohungen durch die Kriminalität, Bedrohungen durch die Bekämpfung, 1991, S. 98-103.
- 17 Strafrechtliche und strafprozessuale Probleme der Kooperation von Behörden und Unternehmen im Lebensmittelrecht. ZSchr f. das gesamte Lebensmittelrecht, 1993, S. 251-282.
- 18 Erfahrungen im Bereich der Subventionskriminalität und rechtspolitische Bestrebungen zur Besserung des Schutzes der EG-Finanzinteressen. G. Dannecker (Hrsg.), Die Bekämpfung des Subventionsbetrugs im EG-Bereich, 1993, S. 23-34.
- 19 Jurisdiction and excuses in the European Community-Adjudication of the Court of Justice of the European Community and Tendencies of the National Legal Systems as a Basis for a Supranational Regulation. European Journal of Crime, Criminal Law and Criminal Justice 1993, S. 230-245.
- 20 Auswirkungen der „Novel Food“-Verordnung auf die lebensmittelrechtlichen Sorgfaltspflichten. Rudolf Streinz (Hrsg.), „Novel food“-Rechtliche und wirtschaftliche Anwendung neuer biotechnischer Verfahren bei der Lebensmittelherstellung, 1993, 203-230, 2. Aufl., 1995, S. 217-246.
- 21 Die Schlüsse an der innerdeutschen Grenze in der höchstrichterlichen Rechtsprechung-BGH-Entsch.v.11.3.1992-5 StR 370/92 = BGHSt 39,1 -. Jura 1994, S. 585-595.
- 22 Die Aufhebung des Rechtsinstituts der fortgesetzten Handlung durch die höchstrichterliche Rechtsprechung. Wirtschaftl. Beratung 1994, S. 669-673.
- 23 Der Ausschluß der lebensmittelrechtlichen Verantwortung durch das Verteidigungsvor-

- bringen der „gebührenden Sorgfalt“-Vorbildcharakter des britischen „due diligence defence“ für die Mitgliedsstaaten der Europäischen Union? G. Dannecker (Hrsg.), Lebensmittelstrafrecht und Verwaltungssanktionen in der Europäischen Union, 1994, S. 203-212.
- 24 Armonizzazione del diritto penale all'interno della Comunità Europea. Rivista Trimestrale di Diritto Penale dell'Economia 1994, S. 961-995.
- 25 Sanktionen und Grundsätze des Allgemeinen Teils im Wettbewerbsrecht der Europäischen Gemeinschaften. B. Schünemann-Carlos Suárez González (Hrsg.), Bausteine für ein Europäisches Wirtschaftsstrafrecht, 1994, S. 331-346.
- 26 Risiken der grenzüberschreitenden Wirtschaftskriminalität-Auswirkungen des neuen Europas auf die internationale Wirtschaftstätigkeit-zum Elften Internationalen Symposium über Wirtschaftskriminalität des Jesus College Cambridge-Europa-Blätter. Beilage zum Bundesanzeiger 1994, S. 12-21, 48-55.
- 27 Möglichkeiten und Grenzen einer Harmonisierung des Lebensmittelstrafrechts und der Verwaltungssanktionen in der Europäischen Gemeinschaft. Europa-Blätter. Beilage zum Bundesanzeiger 1994, S. 98-106
- 28 Der strafrechtliche Schutz der betriebsverfassungsrechtlichen Organe und ihrer Mitglieder. Festschr. f. Gitter, 1995, S. 167-193.
- 29 G. Dannecker-Monika Götz-Leible, Die rechtliche und rechtspolitische Situation im Bereich von Transplantation und Sektion. Oberender (Hrsg.), Gesundheitsökonomie, 1995,
- 30 Die Eignung des „due diligence defence“ zur Begrenzung der strafrechtlichen Verantwortung natürlicher und juristischer Personen im Lebensmittelrecht. ZSchr f. Lebensmittelrecht 1995,
- 31 Möglichkeiten einer Entsanktionierung des deutschen Lebensmittelstrafrechts. ZSchr f. Lebensmittelrecht, 1995,
- 32 Diener des DDR-Regimes: Straftäter oder Opfer des Systems? ELSA (Hrsg.), 50 Jahre danach-Unser Umgang mit der Vergangenheit 1945-1995, 1995,

デリング (Dieter Dölling)

1952年10月28日、ブラウンシュワイヒに生まれた。1971年にギムナジウムを卒業の後、1971年冬学期に、ビーレフェルト大学法学部に入学、73年に、ゲッティンゲン大学に転じ、法律学を学び、1975年12月に、第1次国家試験に合格し、シュツヒ教授の犯罪学・行刑学研究所の助手となった。1978年には、論文 *Die Zweiteilung der Hauptverhandlung-Eine Erprobung vor Einzelrichtern und Schöffengerichten*, 1978 で学位を取得した。1977年から79年まで、司法修習を受け、1980年に、第2次国家試験に合格し、80年から、ゲッティンゲン大学助手、講師を務め、1984年5月に、論文 *Polizeiliche Ermittlungstätigkeit und Legalitätsprinzip. Eine empirische und juristische Analyse des Ermittlungsverfahrens unter*

besonderer Berücksichtigung der Aufklärungs- und Verurteilungswahrscheinlichkeit. 2 Bde, 1987 で教授資格を取得し, 1985年5月から87年3月まで, ゲッティンゲン大学教授, 1987年4月に, エアランゲン大学教授, 1990年10月に, ハイデルベルヒ大学教授となった。

Geboren am 28. Oktober 1952 in Braunschweig. Mai 1971 Abitur. WS 1971–WS 72 Studium der Rechtswissenschaften in Bielefeld, SS 73–WS 75 in Göttingen. WS 75 1. juristische Staatsprüfung; 75–80 Assistent bei Schöch; November 1978 Promotion; 1977–79 Referendar; ab Juli 1981 Akademischer Rat; Mai 1984 Habilitation; Mai 1985–März 1987 Professor (C 3) in Göttingen; April 1987 Professor (C 4) in Erlangen–Nürnberg; Oktober 1990 Professor (C 4) in Heidelberg.

共著

D. Dölling–Th. Feltes (eds.), Community Policing. Comparative Aspects of Community Oriented Police Work, 1993.

Eindämmung des Drogenmißbrauchs zwischen Repression und Prävention, 1995.

Dieter Dölling (Hrsg.), Die Täter-Individualprognose. Beiträge zu Stand, Problemen und Perspektiven der kriminologischen Prognoseforschung, 1995.

Aufsätze

- 1 Betrug und Bestechlichkeit durch Entgeltannahme für eine vorgetäuschte Dienstpflichtverletzung? BGH, NJW 1980, 2203. JuS 1981, S. 570–574.
- 2 Sachbeschädigung durch Plakatieren von Gebrauchsgegenständen. NJW 1981, S. 207–208.
- 3 Die Aussetzung des Restes der Ersatzfreiheitsstrafe zur Bewährung. NSiZ 1981, S. 86–90.
- 4 Die Zerteilung der Hauptverhandlung im Lichte praktischer Erfahrungen mit einem Reformmodell. Reinhard Moos—Einhard Steininger (Hrsg.), Probleme der Strafprozeßreform. Rechtsvergleichendes Seminar über das Vorverfahren und die Hauptverhandlung Reichersberg 1981. 1982, S. 116–122.
- 5 Strafeinschätzungen und Delinquenz bei Jugendlichen und Heranwachsenden—Ein Beitrag zur empirischen Analyse der generalpräventiven Wirkungen der Strafe. H.-J. Kerner–H. Kury–K. Sessar (Hrsg.), Deutsche Forschungen zur Kriminalitätsentstehung und Kriminalitätskontrolle. IDKF Bd. 6/1 1983, S. 51–85.
- 6 Fahrlässige Tötung bei Selbstgefährdung des Opfers. GA 1984, S. 71–94.
- 7 Die Behandlung der Körperverletzung im Sport im System der strafrechtlichen Sozialkontrolle. ZStrW Bd. 96, 1984, S. 36–65.
- 8 Zur Bedeutung des Strafrechts für das Legalverhalten von Jugendlichen und Heranwachsenden. DVJJ (Hrsg.), Jugendgerichtsverfahren und Kriminalprävention, 1984, S. 259–272.
- 9 Probleme der Aktenanalyse in der Kriminologie. H. Kury (Hrsg.), Methodologische Probleme in der kriminologischen Forschungspraxis. IBKF Bd. 5, 1984, S. 265–286.

- 10 Umweltstraftat und Verwaltungsrecht. Zur Bedeutung von Verwaltungsakten und materiellem Verwaltungsrecht für die Strafbarkeit des Bürgers wegen eines Umweltdelikts. JZ 1985, S. 461-469.
- 11 Rechtsgefühl und Perzeption des Strafrechts bei delinquenten und nicht delinquenten jugendlichen Heranwachsenden. E.J. Lampe (Hrsg.), Das sogenannte Rechtsgefühl. Jb. f. Rechtssoziologie u. Rechtstheorie Bd. 10, 1985, S. 240-256.
- 12 Diebstahl in einem besonders schweren Fall bei Ausschaltung einer Alarmanlage in einem Kaufhaus. OLG Stuttgart, NStZ 1985, 76 JuS 1986, S. 688-693.
- 13 Suizid und unterlassene Hilfeleistung. NJW 1986, S. 1011-1017.
- 14 Kriminalitätseinschätzung und Sicherheitsgefühl der Bevölkerung als Einflußfaktoren auf kriminalpolitische und kriminalstrategische Planung. Schriftenreihe der Polizeiführungsakademie 1986, S. 38-57.
- 15 Zulässigkeit und Grenzen der Sterbehilfe. Medizinrecht 1987, S. 6-12.
- 16 Das Dreiundzwanzigste Strafrechtsänderungsgesetz - Strafaussetzung zur Bewährung. NJW 1987, S. 1041-1049.
- 17 Forschungserfahrungen mit Aktenuntersuchung. J.-M. Jehle (Hrsg.), Datenzugang und Datenschutz in der kriminologischen Forschung. 1987, S.273-288.
- 18 Sterbehilfe aus juristischer Sicht. Ungelöste Probleme zwischen Lebenserhaltungspflicht und Selbstbestimmungsrecht. H. Schöch (Hrsg.), Gibt es ein Recht auf einen würdigen Tod? 1987, S. 7-36.
- 19 Robert von Hippel (1866-1951). Ein deutscher Strafrechtswissenschaftler im Übergang vom 19. zum 20. Jahrhundert. Fritz Loos (Hrsg.), Rechtswissenschaft in Göttingen. Göttinger Juristen aus 250 Jahren, 1987, S. 413-434.
- 20 Diskussionsberichte: „Verfassungsrechtliche Grenzen jugendrichterlicher Weisungen“ und „Täter-Opfer-Ausgleich im Jugendstrafrecht“. H. Schöch (Hrsg.), Wiedergutmachung und Strafrecht. Symposium aus Anlaß des 80. Geburtstags von Friedrich Schaffstein. 1987, S. 137-142 u. 159-166.
- 21 Bericht über das Forumgespräch „Datenschutz in der Praxis, in der Forschung und beim Austausch zwischen beiden Arbeitsfeldern“ auf der Fachkonferenz Bewährungshilfe 1987 - Kooperation und Projektarbeit. Rundbrief Soziale Arbeit und Strafrecht 1987, S. 8-11.
- 22 Jeder, wie er's verdient. Kriminalitätsentwicklung als Indikator gesellschaftlicher Zustände. Krim 1988, S. 350-361.
- 23 Verlesbarkeit schriftlicher Erklärungen und Auskunftsverweigerung nach § 55 StPO. Zugleich eine Besprechung des Urt. des BGH v. 23. 12. 1986—1 StR 514/86, NStZ 1988, 36. NStZ 1988, S. 6-10.
- 24 Empfehlen sich Änderungen des Umweltstrafrechts? ZRP 1988, S. 334-339.
- 25 Determinanten und Strukturen polizeilicher Ermittlungstätigkeit. Kaiser-Kury-Albre-

- cht (Hrsg.), Kriminologische Forschung in den 80er Jahren. Bd. 1, 1988, S. 125-156.
- 26 Effizienzsteigerung durch Beurteilung der Aufklärungswahrscheinlichkeit? BKA (Hrsg.), Symposium: Der polizeiliche Erfolg. 1988, S. 113-137.
- 27 Strafverfolgung mit begrenzten Mitteln. Polizeiliche Ermittlungstätigkeit zwischen Kapazitätsengpässen und Legalitätsprinzip. Krim 1989, S. 626-632.
- 28 Die Verlängerung der Bewährungszeit nach § 56 f II StGB. NStZ 1989, S. 345-348.
- 29 Mehrfach auffällige junge Straftäter – kriminologische Befunde und Reaktionsmöglichkeiten der Jugendstrafrechtspflege. ZBJR 1989, S. 313-319.
- 30 Kriminologie im „Dritten Reich“. Ralf Dreier-Wolfgang Sellert (Hrsg.), Recht und Justiz im Dritten Reich. 1989, S. 194-225.
- 31 Kriminologisches Grundlagenwissen zur Jugendkriminalität und zum Umgang mit straffälligen Jugendlichen. Dieter Rössner (Hrsg.), Toleranz – Erziehung – Strafe. Antworten auf Straftaten Jugendlicher, 1989, S. 7-42.
- 32 Grundprobleme des Umweltstrafrechts aus juristischer und kriminologischer Sicht. Deutsche Richterakademie (Hrsg.), Natur und Umweltschutzrecht. Justiz und Recht. Bd. 5, 1989, S. 81-107.
- 33 Rechtsprobleme der Jugendstrafrechtsreform durch die Praxis. BMJ (Hrsg.), Jugendstrafrechtsreform durch die Praxis – Informelle Reaktionen und neue ambulante Maßnahmen auf dem Prüfstand, 1989, S. 243-264.
- 34 Perspektiven der Kriminologie aus strafrechtswissenschaftlicher Sicht – Erscheinungsformen und Entstehungsbedingungen von Kriminalität, Straftheorie und Strafverfahren. Joachim Savelsberg (Hrsg.), Zukunftsperspektiven der Kriminologie in der Bundesrepublik Deutschland. IBKF Neue Folge Bd. 2, 1989, S. 184-189.
- 35 Generalprävention durch Strafrecht: Realität oder Illusion? ZStrW Bd. 102, 1990, S. 1-20.
- 36 Die gemeinnützige Arbeit als eigenständige strafrechtliche Sanktion. Deutsche Bewährungshilfe e.V. (Hrsg.), Die 13. Bundestagung. Dokumentation der 13. Bundestagung der Deutschen Bewährungshilfe e. V. (DBH), 18. bis 21. September 1988 in Marburg, 1990, S. 363-379.
- 37 Junge Mehrfachtäter und präventive Möglichkeiten der Jugendstrafrechtspflege. DVJJ (Hrsg.), Mehrfach Auffällige – mehrfach Betroffene Erlebnisweisen und Reaktionsformen, 1990, S. 666-682.
- 38 Diversion. R. Sieverts-H.J. Schneider, HW der Kriminologie. 2. Aufl., Bd. 5, Nachtrags- u. Registerband, 1991, S. 275-287.
- 39 Die Berichterstattung der Jugendgerichtshilfe unter besonderer Berücksichtigung des Datenschutzes. DVJJ (Hrsg.), Journal 1991, S. 242-250.
- 40 Rape – The Reaction of the Criminal Justice System and the Situation of the Victims in the Federal Republic of Germany. G. Kaiser-H. Kury-H.-J. Albrecht (eds.), Victims

- and Criminal Justice. Vol. II, Legal Protection, Restitution and Support, 1991, S. 759-778.
- 41 Jugendschutz in der Jugendgerichtshilfe. BMJ (Hrsg.), Jugendgerichtshilfe-quo vadis? 1991, S. 124-148.
- 42 Der Täter-Opfer-Ausgleich. Möglichkeiten und Grenzen einer neuen kriminalrechtlichen Reaktionsform. JZ 1992, S. 493-499.
- 43 Die Weiterentwicklung der Sanktionen ohne Freiheitsentzug im deutschen Strafrecht. ZStrW Bd. 104, 1992, S. 259-289.
- 44 Diversion im Jugendstrafrecht. Bericht aus der Arbeitsgruppe III. J.-M. Jehle (Hrsg.), Individualprävention und Strafzumessung. Ein Gespräch zwischen Strafrecht und Kriminologie. 1992, S. 323 -333.
- 45 Die Bedeutung der Jugendkriminalität im Verhältnis zur Erwachsenenkriminalität. BMJ (Hrsg.), Grundfragen des Jugendkriminalrechts und seiner Neuregelung, 1992, S. 38-59.
- 46 Die resozialisierende Wirkung des Sports im Strafvollzug. Werner Nikolai-Hermann Rieder-Joachim Walter (Hrsg.), Sport im Strafvollzug. Pädagogische und therapeutische Modelle, 1992, S. 67-76.
- 47 General Prevention: Criminological and Psychological Problems. Friedrich Lösel - Doris Bender-Thomas Bliesener (Hrsg.), Psychology and Law. International Perspectives, 1992, S. 193-202.
- 48 Community Policing. Symposium in Zusammenarbeit mit dem Internationalen Wissenschaftsforum Heidelberg anlässlich des 30jährigen Bestehens des Instituts für Kriminologie. Ruperto Carola 1992, S. 137-139.
- 49 Probleme und Perspektiven kriminologischer Forschung in den neuen Bundesländern. Einführung in das Thema; Schlußwort zur AG IV. H. Kury (Hrsg.), Gesellschaftliche Umwälzung. Kriminalitätserfahrungen, Straffälligkeit und Kontrolle, 1992, S. 525-528, 589-590
- 50 Datenschutz und JGH-Berichte. BewHi 1993, S. 128-135.
- 51 D. Dölling-Dieter Hermann-Christian Simsa, Das 28. Kolloquium der südwestdeutschen und schweizerischen kriminologischen Institute. MSchrKrim 76. Jg., 1993, S. 177-182.
- 52 Heinz Leferenz zum 80. Geburtstag. NJW 1993, S. 1749.
- 53 Erziehung im Jugendkriminalrecht und Legalbewährung nach jugendstrafrechtlichen Sanktionen. RdJBW 1993, S. 370-380.
- 54 Präventionsmodelle im Bereich Drogenkriminalität-Konzeption eines Forschungsvorhabens. BKA (Hrsg.), Symposium: Polizeibezogene kriminologische Forschung im zusammenwachsenden Europa. 1993, S. 112-120.
- 55 Die Behandlung der Kleinkriminalität in der Bundesrepublik Deutschland (alte Bundes-

- länder). E.J. Lampe (Hrsg.), Vorschläge zur prozessualen Behandlung der Kleinkriminalität. Deutsche Wiedervereinigung. Die Rechtseinheit. Arbeitskreis Strafrecht. Bd. 1, 1993, S. 3-25.
- 56 Community Policing-Some Remarks. D. Dölling-Th. Feltes (eds.), Community Policing, op. cit., S. 9-11.
- 57 Probleme der Begleitforschung zum Täter-Opfer-Ausgleich. Rainer-Dieter Hering - Dieter Rössner (Hrsg.), Täter-Opfer-Ausgleich im allgemeinen Strafrecht. 1993, S. 63-96.
- 58 Forschungen am Institut für Kriminologie der Universität Heidelberg seit 1990. Heinz Müller-Dietz (Hrsg.), Dreißig Jahre Südwestdeutsche und Schweizerische Kriminologische Kolloquien, 1994, S. 68-77.
- 59 TOA-Modellprojekt bei der Staatsanwaltschaft Nürnberg. Ergebnisse der Begleitforschung. H.-J. Kerner-Elke Hassemer-Erich Marks-Michael Wandrey (Hrsg.), Täter-Opfer-Ausgleich-auf dem Weg zur bundesweiten Anwendung? Beiträge zu einer Standortsbestimmung, 1994, S. 148-170
- 60 Drogenprävention mit Beteiligung der Polizei-Befunde und Perspektiven -. Deutsche Hauptstelle gegen die Suchtgefahren (Hrsg.), Suchtprävention, 1994, S. 96-108.
- 61 Kriminologie in Europa-Europäische Kriminologie? H.-J. Albrecht-Josef Kürzinger (Hrsg.), Kriminologie in Europa-Europäische Kriminologie? Kolloquium aus Anlaß des Geburtstags von Prof. Dr.Dr. h.c. mult. Günther Kaiser, 1994, S. 71-74.
- 62 Einstellung des Strafverfahrens gemäß § 153a Abs. 1 StPO und Rückfall. Kriminalistik und Strafrecht.. Festschr. f. Friedrich Geerds, 1995, S. 239-262.
- 63 Perspektiven kriminologischer Prognoseforschung. D. Dölling (Hrsg.), Die Täter-individualprognose, 1995, S. 129-141.

デュンケル (Frieder *Dünkel*)

1950年5月10日、カールスルーエに生まれた。1969年に、カールスルーエのギムナジウムを卒業し、1969年から、ハイデルベルヒ、次いで、フライブルク大学で法律学と心理学を学び、1974年、第1次国家試験に合格、司法修習とともに、フライブルクのマックス・ブランク・外国国際刑法研究所の副手となった。1976年に第2次国家試験に合格、79年から研究員となり、Legalbewährung nach sozialtherapeutischer Behandlung. Eine empirische vergleichende Untersuchung anhand der Strafregistrauszüge von 1503 in den Jahren 1971-1974 entlassenen Strafgefangenen in Berlin-Tegel, 1980 で学位を得た。教授資格は、1989年に、Freiheitsentzug für junge Rechtsbrecher Situation und Reform von Jugendstrafe, Jugendstrafvollzug, Jugendarrest und Untersuchungshaft in der Bundesrepublik Deutschland und im internationalen Vergleich, 1990 で獲得した。1992年5月、グライフスワルト大学教授に就任した。

Geboren am 10. Mai 1950 in Karlsruhe. 1969-1971 Jura-Studium an den Universitäten Heidelberg u. Freiburg; 1974 1. Jurist. Staatexamen u. Referendardienst; 1976 2. Jur. Staats-

examen; 1977-90 Referent im MPI Freiburg; 1979 Promotion; 1989 Habilitation; 1992 Professor in Greifswald.

著書・編著

Fr. Dünkel-Anton Rosner (Hrsg.), Die Entwicklung des Strafvollzugs in der Bundesrepublik Deutschland seit 1970. Materialien und Analyse. 1. Aufl., 1981; 2. Aufl., 1982.

Fr. Dünkel-G. Spieß (Hrsg.), Alternativen zur Freiheitsstrafe. Strafaussetzung zur Bewährung und Bewährungshilfe im internationalen Vergleich, 1983.

Fr. Dünkel-K. Meyer (Hrsg.), Jugendstrafe und Jugendstrafvollzug. Stationäre Maßnahmen der Jugendkriminalrechtspflege im internationalen Vergleich. Bd. 1 u. 2, 1985/86.

Die Herausforderung der geburtenschwachen Jahrgänge. Aspekte der Kosten-Nutzen-Analyse in der Kriminalpolitik, 1987.

F. Dünkel-Jean Zermatten (Hrsg.), Nouvelles tendances dans le droit pénal des mineurs. Médiation, travail au profit de la communauté et traitement intermédiaire, 1990.

Dirk van Zyl Smit-Fr. Dünkel (eds.), Imprisonment today and tomorrow. International perspectives on prisoners' rights and prison conditions. 1991.

Empirische Beiträge und Materialien zum Strafvollzug. Bestandsaufnahmen des Strafvollzugs in Schleswig-Holstein und des Frauenvollzugs in Berlin, 1992.

F. Dünkel et al. (eds.), Jeunes délinquants et jeunes en danger en milieu ouvert: utopie ou réalité? Cadres légaux et nouvelles pratiques-approche comparative, 1994.

Fr. Dünkel-Jon Vagg (Hrsg.), Untersuchungshaft und Untersuchungshaftvollzug. International vergleichende Perspektiven zur Untersuchungshaft sowie zu den Rechten und Lebensbedingungen von Untersuchungsgefangenen. 2 Bde, 1994.

Aufsätze

- 1 Probleme und Prospekten in der Entlassungshilfe. Dargestellt am Beispiel der Freiburger Anlaufstelle für Straftentlassene. Bew-Hi 1979, S. 145-159.
- 2 Sozialtherapeutische Behandlung und Rückfälligkeit in Berlin-Tegel. MSchrKrim 1979, S. 322-337.
- 3 Ergebnisse sozialtherapeutischer Behandlung im Strafvollzug der Bundesrepublik Deutschland. Östr.JZ 1980, S. 542-548.
- 4 Abbruch krimineller Karrieren durch sozialtherapeutische Maßnahmen? ZStrVo, SH Sozialtherapie u. Behandlungsforschung, 1980, S. 70-77.
- 5 Impressionen und Perspektiven. Schlußreferat der Tagung „Anlaufstellen-Hilfen für Straftentlassene“ vom 5.-7.11.1979 in Hanau. Evang. Akademie Bad Boll. 1980, S. 39-50.
- 6 F. Dünkel-A. Rosner, Zur gegenwärtigen Lage des Erwachsenenstraf- und Untersuchungshaftvollzugs der Bundesrepublik Deutschland. Forschungsgruppe Kriminologie (Hrsg.), Empirische Kriminologie, 1980, S. 328-353. ⇒ Criminological Research Unit (ed.), Research in Criminal Justice. 1982, S. 306-333.
- 7 Selektion und Rückfälligkeit nach Entlassung aus unterschiedlichen Formen des Straf-

- vollzugs in West-Berlin. Ibid., S. 467-485. ⇒ Ebenda, S. 449-468.
- 8 F. Dünkel-E. Johnson, Introduction of Therapy into Tegel-Prison: Evaluation of an Experiment. *International Journal of Comparative and Applied Criminal Justice*. vol. 4, 1980, S. 233-247.
- 9 Prognostische Kriterien zur Abschätzung des Erfolgs von Behandlungsmaßnahmen im Strafvollzug sowie für die Entscheidung über die bedingte Entlassung. *MSchrKrim* 1981, S. 279-295.
- 10 H.-J. Albrecht-Fr. Dünkel-G. Spieß, Empirische Sanktionsforschung und die Begründbarkeit von Kriminalpolitik. *MSchrKrim* 1981, S. 310-326.
- 11 Zur Situation und Entwicklung in der Entlassenenhilfe. *ZStrVo* 1981, S. 202-208.
- 12 Die vergessene Minderheit-Alte Menschen als Straftäter. *ZSchr. Gerontologie*. Bd. 14, 1981, S. 259-273.
- 13 E.H. Johnson-F. Dünkel, Introducing into Tegel-Prison: Implications from an Evaluation Perspective. *Intern. Journ. of Comp. and Appl. Criminal Justice*. vol. 5, 1981, S. 3-10.
- 14 G. Dolde-F. Dünkel-G. Schmitt, Grundsätzliche Aussagen und Empfehlungen des Fachausschusses V zur zukünftigen rechtlichen und tatsächlichen Ausgestaltung der Sozialtherapie im Justizvollzug. *Bundeszusammenschluß für Straffälligenhilfe (Hrsg.)*, Sozialtherapie als kriminalpolitische Aufgabe. Empfehlungen zur zukünftigen rechtlichen und tatsächlichen Ausgestaltung der Sozialtherapie im Justizvollzug, 1981, S. 10-26.
- 15 Gegenwärtige kriminalpolitische Strömungen zur (sozialtherapeutischen) Behandlung im Strafvollzug. Ebenda, S. 27-52.
- 16 Evaluation sozialtherapeutischer Maßnahmen unter besonderer Berücksichtigung von Rückfalltätern und den Tätergruppen des § 65 StGB. Ebenda, S. 81-95.
- 17 G. Dolde-Fr. Dünkel-G. Rehn, Zusammenfassende Thesen zur Evaluation sozialtherapeutischer Behandlung bei Rückfalltätern und den Tätergruppen des § 65 StGB. Ebenda, S. 120-122.
- 18 Zeitlicher Rahmen und Entlassung-Konsequenzen einer materiell- bzw. vollzugsrechtlichen Ausgestaltung der Sozialtherapie. Ebenda, S. 175-179.
- 19 Strafrechtliche Drogengesetzgebung im internationalen Vergleich. G. Völger (Hrsg.), *Rausch und Realität-Drogen im Kulturvergleich*, 1981, S. 674-683, 843-844.
- 20 Schulausbildung im Strafvollzug. Zur Integration schulpädagogischer und sozialtherapeutischer Maßnahmen. *RdJBW Jg.* 30, 1982, S. 142-155.
- 21 G. Kaiser-Fr. Dünkel-Rüdiger Ortmann, Die sozialtherapeutische Anstalt—das Ende einer Reform? *ZRP* 1982, S. 198-207.
- 22 Die Öffnung des Strafvollzugs—Anspruch und Wirklichkeit. *ZStrW* Bd. 94, 1982, S. 669-710.
- 23 Die Entwicklung der Drogenpolitik und Drogengesetzgebung im internationalen Ver-

- gleich. Recht u. Politik. Bd. 19, 1983, S. 165-173.
- 24 15 Jahre Strafvollzugsreform-zur Entwicklung und Struktur des Strafvollzuges in der Bundesrepublik Deutschland. SchwZStr Bd. 100, 1982, S. 131-158.
- 25 Probleme und Entwicklungstendenzen staatlicher Drogenkontrolle und -politik im internationalen Vergleich. Soziale Arbeit 1983, S. 569-580.
- 26 Strafvollzug aus der Sicht der Forschung. ZStrVo 1983, Jg.32, S. 3-18.
- 27 Rechtliche, rechtsvergleichende und kriminologische Probleme der Strafaussetzung zur Bewährung. ZStrW Bd. 95, 1983, S.1039-1075.
- 28 Strafaussetzung zur Bewährung und Bewährungshilfe im Kontext gegenwärtiger Kriminalpolitik. Dünkelspieß (Hrsg.), Alternativen zur Freiheitsstrafe, op. cit. S. 3-20.
- 29 Strafaussetzung zur Bewährung und Bewährungshilfe im internationalen Vergleich-ein Überblick. Ebenda, S. 399-501.
- 30 Fr. Dünkelspieß, Kriminalpolitische Bewertung der Strafaussetzung und Folgerungen für die Praxis in der Bundesrepublik. Ebenda, S. 503-514.
- 31 Die Geschichte des Strafvollzuges als Geschichte von (vergeblichen?) Vollzugsformen. R. Dribold (Hrsg.), Strafvollzug. Erfahrungen, Modelle, Alternativen, 1983, S. 25-54.
- 32 Methodische Probleme der Effizienzforschung bei Behandlungsmaßnahmen im Strafvollzug, insbesondere der Sozialtherapie. H. Kury (Hrsg.), Methodische Probleme der Behandlungsforschung, insbesonder Sozialtherapie, 1983, S. 121-147.
- 33 Neuere Entwicklungen im Bereich der Bewährungshilfe und -aufsicht im internationalen Vergleich. BewHi 1984, S. 162-184.
- 34 Die Reform von Jugendstrafe und Jugendstrafvollzug im internationalen Vergleich. RdJBW Jg. 32, 1984, S. 308-326
- 35 Die Freiburger Anlaufstelle für Straftatlassene. ZStrVo Jg. 33, 1984, S. 227-230.
- 36 Sozialarbeit im Strafvollzug und Perspektiven einer Organisation Sozialer Dienste in der Justiz. Ebenda, S. 323-330
- 37 Möglichkeiten und Praxis des Täter-Opfer-Ausgleichs und Aspekte der Stellung des Opfers im Strafverfahren im europäischen Vergleich. BewHi 1985, S. 358-373.
- 38 Fr. Dünkelspieß-Georg Ganz, Kriterien der richterlichen Entscheidung bei der Strafrechtsaussetzung nach § 57 StGB. MSchrKrim 1985, S. 157-175.
- 39 Zur Situation und Entwicklung von Untersuchungshaft und Untersuchungshaftvollzug in der Bundesrepublik Deutschland. ZStrVo 1985, S. 334-335.
- 40 Victim Compensation and Offender Restitution in the Federal Republic of Germany-a Western-European Comparative Perspective. Intern. Journ. of Comp. and Appl. Crim. Justice. vol. 9, 1985, S. 23-39.
- 41 L'influence de la Défense Sociale sur la réforme du droit pénal des mineurs et de leur détention en RFA. Comparaison entre les pays européens. Revue de droit pénal et de criminologie. vol. 65, 1985, S. 507-528.

- 42 Dünkler-Meyer, Die Reform von Jugendstrafe und Jugendstrafvollzug-Gegenstandsbereiche und Ziele eines internationalen Vergleichs. Fr. Dünkler-K. Meyer (Hrsg.), Jugendstrafe und Jugendstrafvollzug. 1. Bd., 1985, S. 2-41.
- 43 Situation und Reform der Jugendstrafe, Jugendstrafvollzug und anderen freiheitsentziehenden Sanktionen gegenüber jugendlichen Rechtsbrechern in der Bundesrepublik Deutschland. Ebenda, S. 45-256.
- 44 Wiedergutmachung als Strafzumessungserwägung und Sanktion. Evangel. Akademie Bad Boll (Hrsg.), Täter, Opfer und Gesellschaft, 1985, S. 130-132, 140-142.
- 45 Erscheinungsformen und Ursachen von Jugendkriminalität unter besonderer Berücksichtigung der Entwicklung in der Bundesrepublik Deutschland, Österreich, der Schweiz und den Niederlanden. Arbeitsgemeinschaft f. Jugendhilfe (Hrsg.), Jugendhilfe und Jugenddelinquenz. 1985, S. 1-70.
- 46 Möglichkeiten der Fortentwicklung des Sozialen Dienstes in der Justiz-eine international vergleichende Betrachtung zu Aufgabenstellungen und Organisationsstruktur. BewHi 1986, S. 129-158
- 47 Fr. Dünkler-Roland Nemec-Anton Rosner, Organisationsstruktur, Behandlungsmaßnahmen und Veränderungen bei Insassen in einer sozialtherapeutischen Anstalt. MSchr-Krim Jg. 69, 1986, S. 1-12.
- 48 Durchgängige Hilfe für Straffällige-eine Aufgabe der Sozialen Dienste der Justiz. Soziale Arbeit. Bd. 35, 1986, S. 370-374.
- 49 Reparation and victim-offender-conciliation and aspects of the legal position of the victim in criminal procedures in a Western-European perspective. H.-J. Kerner et al. DVJJ (Hrsg.), Jugendgerichtsbarkeit in Europa und Nordamerika-Aspekte und Tendenzen, 1986, S. 303-327.
- 50 Kriminalisierung und Entkriminalisierung von Drogentätern in der Bundesrepublik Deutschland. M. Brusten-J.M. Häußling (Hrsg.), Kriminologie im Spannungsfeld von Kriminalpolitik und Kriminalpraxis, 1986, S. 229-266.
- 51 Entwicklungstendenzen der sozialen Dienste in der Justiz im internationalen Vergleich-Veränderungen der Aufgabenstellungen und ihre Auswirkungen auf Selbstverständnis und Organisationsstruktur. Deutsche Bewährungshilfe e.V. (Hrsg.), Zwänge und Chancen in der Justiz. Soziale Arbeit und Strafrecht unter veränderten wirtschaftlichen Bedingungen, 1986, S. 201-251.
- 52 Einflüsse der Défense Sociale auf die Reform von Jugendstrafe und Jugendstrafvollzug in der Bundesrepublik Deutschland sowie im europäischen Vergleich. J.M. Häußling (Hrsg.), Cahiers de Défense Sociale 1986, S. 149-171.
- 53 Soziale Dienste in der Justiz-Möglichkeiten der Fortentwicklung unter besonderer Berücksichtigung ausländischer Erfahrungen. B. Maelicke-R. Simmedinger (Hrsg.), Die Reform der Sozialen Dienste in der Justiz-Argumente Pro und Contra, 1986, S. 25-58.

- 54 Fr. Dünkel-Dieter Rössner, Täter-Opfer-Ausgleich in der Bundesrepublik Deutschland, Österreich und der Schweiz. ZStrW Bd. 99, 1987, S. 845-872.
- 55 Vom schuldvergeltenden Strafvollzug zum resozialisierenden Justizvollzug: Zwischen Anspruch und Wirklichkeit. U.O. Sievering (Hrsg.), Behandlungsvollzug-Evolutionäre Zwischenstufe oder historische Sackgasse? 1987, S. 158-223.
- 56 Aspekte der Kosten-Nutzen-Analyse in der Kriminalpolitik unter veränderten personellen und organisatorischen Rahmenbedingungen. DVJJ (Hrsg.), Und wenn es immer weniger werden?-Die Herausforderung der geburtenschwachen Jahrgänge, 1987, S. 137-171.
- 57 H.-J. Albrecht-F. Dünkel, Herausforderungen an die Kriminalpolitik der 90er Jahre. Neue Kriminalpolitik (NKrimPol) 1988, S. 12-14.
- 58 Zur Entwicklung von Mindestgrundsätzen der vereinten Nationen zum Schutze inhaftierter Jugendlicher. ZStrW Bd. 100, 1988, S. 361-384.
- 59 Réflexions au sujet d'une élaboration de règles minima par les Nations Unies pour la protection des mineurs privés de liberté. Revue Intern. de Criminologie et Police Technique. vol. 61, 1988, S. 309-323.
- 60 Zur aktuellen Entwicklung und Struktur der registrierten Jugendkriminalität in der Bundesrepublik Deutschland. Arbeitsgemeinschaft f. Jugendhilfe (Hrsg.), Jugendhilfe und Jugenddelinquenz. 1988, S. 1-34.
- 61 Die Anlaufsstelle für Straftatlassene Freiburg - Entwicklung und Konzeption. Bezirksverein f. soziale Rechtspflege Freiburg (Hrsg.), 15 Jahre Anlaufstelle f. Straftatlassene in Freiburg 1972-1987. 1988, S. 5-18.
- 62 F. Dünkel-U. Jesionek, Opfer und Täter-Neue Wege im Strafrecht. O. Molden (Hrsg.), Erkenntnis und Entscheidung. Die Wertproblematik in Wissenschaft und Praxis. 1988, S. 602-613.
- 63 F. Dünkel-B. Geng, Aspects of the Recidivism of Career Offender According to Different Forms of Correction and Release from Prison. G. Kaiser-I. Geisler (Hrsg.), Crime and Criminal Justice. Criminological Research in the 2nd Decade of the Max Planck Institute in Freiburg. 1988, S. 137-185.
- 64 Internationale Tagung: Strafvollzug im Vergleich (Bericht über ein Seminar v. 19.-23. 9. 1989. in Buchenbach bei Freiburg). NKrimPol. 1989, 4, S. 10-12.
- 65 Zur Schädlichkeit von schädlichen Neigungen. Ebenda, S. 34-37.
- 66 Freiheitsentzug für junge Rechtsbrecher - Aktuelle Tendenzen im internationalen Vergleich. RuP 1989, S. 27-35.
- 67 Internationale Entwicklungen zum Freiheitsentzug für jugendliche Rechtsbrecher. Soziale Arbeit (ZSchr. des Verbandes Schweizerischer Sozialarbeiter und Erzieher). Bd. 21, 1989, S. 30-40.
- 68 C. Tiffer Somomayor-F. Dünkel, Das Jugendstrafrecht in Lateinamerika unter besonderer Berücksichtigung des Jugendrechts in Costa Rica. ZStrW Bd. 101, 1989, S. 206-228.

- 69 Law and Practice of Victim/Offender Agreement. M. Wright-B. Galaway (Hrsg.), Mediation and Criminal Justice. Victims, Offenders and Community. 1989, S. 152-177.
- 70 Kriminalpolitik unter veränderten demographischen Ausgestaltungsbedingungen und (mögliche) Folgen für die Straffälligenhilfe. Evangel. Akademie Bad Boll (Hrsg.), Demographie + Kriminalpolitik = Strafrechtspflege 2000 (?). 1989, S. 49-75.
- 71 Alternativen zum Freiheitsentzug im Jugendkriminalrecht in international vergleichender Sicht. B. Rehling (Hrsg.), Jugendkriminalität und Freiheitsentzug. Beiträge zur Diversion-Diskussion in der Jugendkriminalrechtspflege. 1989, S. 69-95.
- 72 Täter-Opfer-Ausgleich und Schadenswiedergutmachung - Neuere Entwicklungen des Strafrechts und der Strafrechtspraxis im internationalen Vergleich. E. Marks-D. Rössner (Hrsg.), Täter-Opfer-Ausgleich. Vom zwischenmenschlichen Weg zur Wiederherstellung des Rechtsfriedens. 1989, S. 394-463.
- 73 Voraussetzungen für die Verhängung von (ausgesetzter und nicht ausgesetzter) Jugendstrafe - Regelungsmöglichkeiten und Interpretationsspielräume im internationalen und nationalen Vergleich. Info 1/1989, S. 64-127.
- 74 Aktuelle Entwicklungen im Jugendstrafvollzug der Bundesrepublik Deutschland. Der Senator f. Justiz und Verfassung der Freien Hansestadt Bremen (Hrsg.), Justizvollzug im Land Bremen - Bilanz und Perspektiven. 1989, S. 13-38, 77, 84-90.
- 75 Zur Fortentwicklung von Bewährungshilfe und Straftentlassenhilfe. Stellungnahme zum Fragenkatalog der SPD-Bundestagsfraktion, Arbeitskreisrechtswesen. BewHi 1990, S. 189-200.
- 76 F. Dünkel - D. Rössner, Kriminalpolitik auf dem Prüfstand. Teil 3: Baden-Württemberg. Liberale Politik im konservativen Land. NKrimPol. Jg. 2, H. 1, 1990, S. 17-21. ⇒ Fr. Dünkel-D. Rössner, Bernd Maelike-Helmut Ortner (Hrsg.), Thema: Kriminalpolitik, 1991, S. 35-45.
- 77 Frankreich: Richtiger Schritt. Der Gesetzentwurf zur Reform des Jugendstrafrechts in Frankreich. Ebenda, Jg. 2, H. 4, S. 11-12.
- 78 Was bringt uns der Jugendarrest? ZBlJR Bd. 77, 1990, S. 425-436.
- 79 Stellungnahme zum Entwurf eines Gesetzes zur Änderung des Strafvollzugsgesetzes. ZStrVo 1990, S. 105-108.
- 80 Jugendstrafvollzug in der Bundesrepublik Deutschland - Situation und Entwicklungsperspektiven. DVJJ (Hrsg.), Mehrfach Auffällige - mehrfach Betroffene. Erlebnisweisen und Reaktionsformen. 1990, S. 356-383.
- 81 Der Strafvollzug in Schleswig-Holstein im internationalen Vergleich - Entwicklungen und Perspektiven. J. Burmeister - B. Maelicke (Hrsg.), Neue Fachtagung. 1990, S. 23-69.
- 82 Médiation-délinquant-victims et réparation des dommages. Nouvelle évolution du droit pénal et de la pratique judiciaire dans une comparaison internationale. F. Dünkel-J. Zermatten (Hrsg.), Nouvelle tendances dans le droit pénale des mineurs. Op. cit. S.1

-81.

- 83 F. Dünkler-M. Merigeau, Les expériences de médiation délinquant-victime en République fédérale d'Allemagne Ebenda, S. 95-124.
- 84 Zur Situation des Jugendarrests in der Bundesrepublik Deutschland vor und nach der Vereinigung. DVJJ-Journal Jg. 2, 1991, S. 23-24.
- 85 Strafvollzug: Öffnung notwendig. NKrimPol 1991, H. 2, S. 4-5.
- 86 Jugendstrafrecht: Progressive Kriminalpolitik? Ebenda, H. 4, S. 6-7.
- 87 Bundestag: Bewährungshilfe im Umbruch. Ebenda, S. 8-9.
- 88 Drogenpolitik und Drogengesetzgebung im internationalen Vergleich. RuP 1991, S. 227-239.
- 89 Alte Menschen im Strafvollzug. ZStrVo Jg. 40, 1991, S. 350-357.
- 90 Zur Entwicklung der Drogenkriminalität und Drogenkontrolle in Deutschland. Bulletin de Criminologie Bd. 17, 1991, S. 47-74
- 91 F. Dünkler-D. Rössner, Federal Republic of Germany. D. v. Zyl Smit-F. Dünkler (Hrsg.), Imprisonment Today and Tomorrow. op.cit. S. 203-248.
- 92 F. Dünkler-D. v. Zyl Smit, Conclusion. Ebenda, S. 713-743.
- 93 F. Dünkler-K. Krainz-M. Würger, Victimization and Incidence of Delinquency - An International Comparison - Results of a Survey of Law Students in the Federal Republic of Germany, Austria and Switzerland. G. Kaiser et al. (Hrsg.), Victims and Criminal Justice. Bd. II, 1991, S. 123-172.
- 94 Zur Zukunft des Jugendarrests und (kurzfristiger) Freiheitsentziehung in Deutschland. INFO 1991, S. 7-41.
- 95 Fr. Dünkler-G. Spiess, Perspektiven der Strafaussetzung zur Bewährung im zukünftigen deutschen Strafrecht. BewHi 1992, S. 117-138.
- 96 Jugendstrafvollzugsgesetz: Vergebliches Bemühen um eine Reform. NKrimPol 1992, H. 1, 8-9.
- 97 Thesen zu einer Neukonzeption freiheitsentziehender Sanktionen im Jugendstrafrecht. NKrimPol 1992 H. 3, S. 30-34.
- 98 97 F. Dünkler-N. Gescher, Jugendgerichtstag: für ein neues JGG jetzt! NKrimPol 1992, H. 4, S. 8-9.
- 99 Brauchen wir ein Jugendstrafvollzugsgesetz? ZRP 1992, S. 176-181.
- 100 The Development of Drug-Related Crime and Drug Control in Germany. Intern. Journal of Comp. and Appl. Criminal Justice. vol. 16, 1992, S. 1-14.
- 101 Probleme des Strafvollzugs nach der Wiedervereinigung. H. Kury (Hrsg.), Gesellschaftliche Umwälzung: Kriminalitätserfahrungen, Straffälligkeit und soziale Kontrolle. Das erste deutsch-deutsche Kolloquium. 1992, S. 452-478.
- 102 Das deutsche Jugendgerichtsgesetz im europäischen Vergleich BM f. Justiz (Hrsg.), Grundfragen des Jugendstrafrechts und seiner Neuordnung. 2. Kölner Symposium. 1992,

- S. 92-122.
- 103 F. Dünkel-D. Rössner-H. Schüler-Springorum, L'Évolution du Traitement Pénitentiaire en Allemagne. *Revue Pénitentiaire et de droit pénal.* vol. 116, 1992, S. 9-75.
 - 104 Empirische Daten zur sozialen Lage von Strafgefangenen. Ergebnisse zweier Untersuchungen in Schleswig-Holstein und Berlin. *Kriminalpädagogische Praxis*, 21. Jg., H. 33, 1993, S. 6-17.
 - 105 Strafvollzug im Übergang. Zur Situation in den neuen Bundesländern. *NKrimPol* 1993, H. 1, S. 37-43.
 - 106 Untersuchungshaft: Alarmierender Anstieg. Ebenda, H. 3, S. 9-10.
 - 107 Heranwachsende im (Jugend-) Kriminalrecht Regelungen und Reformtendenzen in den Staaten Westeuropas. *ZStrW* Bd. 105, 1993, S. 137-165
 - 108 Sicherheit im Strafvollzug-Empirische Daten zur Vollzugswirklichkeit unter besonderer Berücksichtigung der Entwicklung bei den Vollzugslockerungen. *FSchr f. Schüler-Springorum*, 1993, S. 641-669.
 - 109 Perspektiven für die Straffälligenhilfe in Deutschland und Berücksichtigung internationaler Erfahrungen W. Nickolai-R. Reindl (Hrsg.), *Sozialarbeit und Kriminalpolitik*. 1993, S. 63-92.
 - 110 F. Dünkel-B. Geng, Zur Rückfälligkeit von Karrieretätern nach unterschiedlichen Strafvollzugs- und Entlassenformen. G. Kaiser - H. Kury (Hrsg.), *Kriminologische Forschung in den 90er Jahren*. 1993, S. 193 - 257. ⇨ M. Steller et al. (Hrsg.), *Straftäterbehandlung*. 1994, S. 35-59.
 - 111 Jugendstrafvollzug im internationalen Vergleich. T. Trenczyek (Hrsg.), *Freiheitsentzug bei jungen Straffälligen*. 1993, S. 93-113, 231-259.
 - 112 Strafvollzug im internationalen Vergleich. Rechtsstaatliche Antworten auf neue Kriminalitätsformen. 17. Strafverteidigertagung, 1993, S. 263-296.
 - 113 Jugendstrafrecht: Verschärfungen abgewehrt. *NKimPol* 1994, H. 1, S. 9-10.
 - 114 Gefangenenanzahl: Falsche Vergleiche. Ebenda, H. 3, S. 9-10
 - 115 Insassen des Jugendstrafvollzugs und nach Jugendstrafrecht unterstellte Bewährungshilfeprobanden. Ebenda, S. 35.
 - 116 Tagungsbericht: Prävention statt Repression. Ebenda, H. 4, S. 10-11.
 - 117 Tagungsbericht: Jugendkriminalität und Menschenrechte. Ebenda, 12-13.
 - 118 Untersuchungshaft als Krisenmanagement? Daten und Fakten zur Praxis der Untersuchungshaft in den 90er Jahren. Ebenda, S. 20-29.
 - 119 Praxis der Untersuchungshaft in den 90er Jahren-Instrumentarisierung strafprozessualer Zwangsmittel für kriminal- und ausländerpolitische Zwecke? *StV* 1994, S. 610-621.
 - 120 Sicherheit im Strafvollzug-Empirische Daten zur Strafvollzugswirklichkeit unter besonderer Berücksichtigung der Entwicklung bei den Vollzugslockerungen. W. Greive (Hrsg.), *Strafvollzug und Sicherheit*. 1994, S. 100-133.

- 121 Deutschland/Germany. F. Dünkel-J. Vagg (Hrsg.), Untersuchungshaft und Untersuchungshaftvollzug, op.cit. Teilband. 1, 1994, S. 67-181.
- 122 F. Dünkel-J. Vagg, Zusammenfassung und Schlußfolgerungen. Ebenda, Teilband 2, 1994, S. 869-956.
- 123 Jugendhilfe und/oder Jugendstrafrecht? Anmerkungen zu den Vorschlägen der Arbeiterwohlfahrt für ein neues Jugendstrafrecht. NKrimPol 1995, H. 3, S. 22-27.
- 124 Junge Menschen vor dem drohenden Abstieg - Jugendhilfe, Jugendstrafrechtspflege und Kriminalpolitik. RdJBW 1995, S. 305-320.
- 125 Untersuchungshaft bei Jugendlichen und Heranwachsenden. M. Busch et al. (Hrsg.), Zwischen Erziehung und Strafe. Festschr. f. K. Hällinger, 1995, S. 93-129.
- 126 Inprisonment in Transition The Situation in the New States of the Federal Republic of Germany. British Journal of Criminology. vol. 35, 1995, S. 95-113.